

2023年度
救急救命学科
シラバス

■目次

1年生 学修成果(到達目標)	4
1年生 カリキュラムマップ	4
1年生 カリキュラムツリー	5
1年生 年間予定表	6
1年生 シラバス	9

開講科目	頁	開講科目	頁
日本語表現法	9	救急救命医療概論	23
英語	10	救急救命処置概論	25
現代の社会	11	救急病態生理学	27
法律入門	12	救急症候学Ⅰ	29
情報処理	13	救急症候学Ⅱ	31
解剖生理学	14	救急症候学Ⅲ	33
人体構造と機能Ⅰ	15	疾病救急医学Ⅰ	35
人体構造と機能Ⅱ	16	疾病救急医学Ⅱ	37
人体構造と機能Ⅲ	17	疾病救急医学Ⅲ	39
薬理学	18	疾病救急医学Ⅳ	41
病理学	19	外傷学Ⅰ	43
微生物学	20	外傷学Ⅱ	45
社会保障論	21	救急救命シミュレーションⅠ	47
医学概論	22	救急救命シミュレーションⅡ	52

ナンバリング	57
教員一覧	60
実務経験を有する教員一覧	60
オフィスアワー・成績評価	61

救急救命学科

1 年生

- 学修成果（到達目標）
- カリキュラムマップ
- カリキュラムツリー
- 年間予定表
- シラバス

学修成果（到達目標）

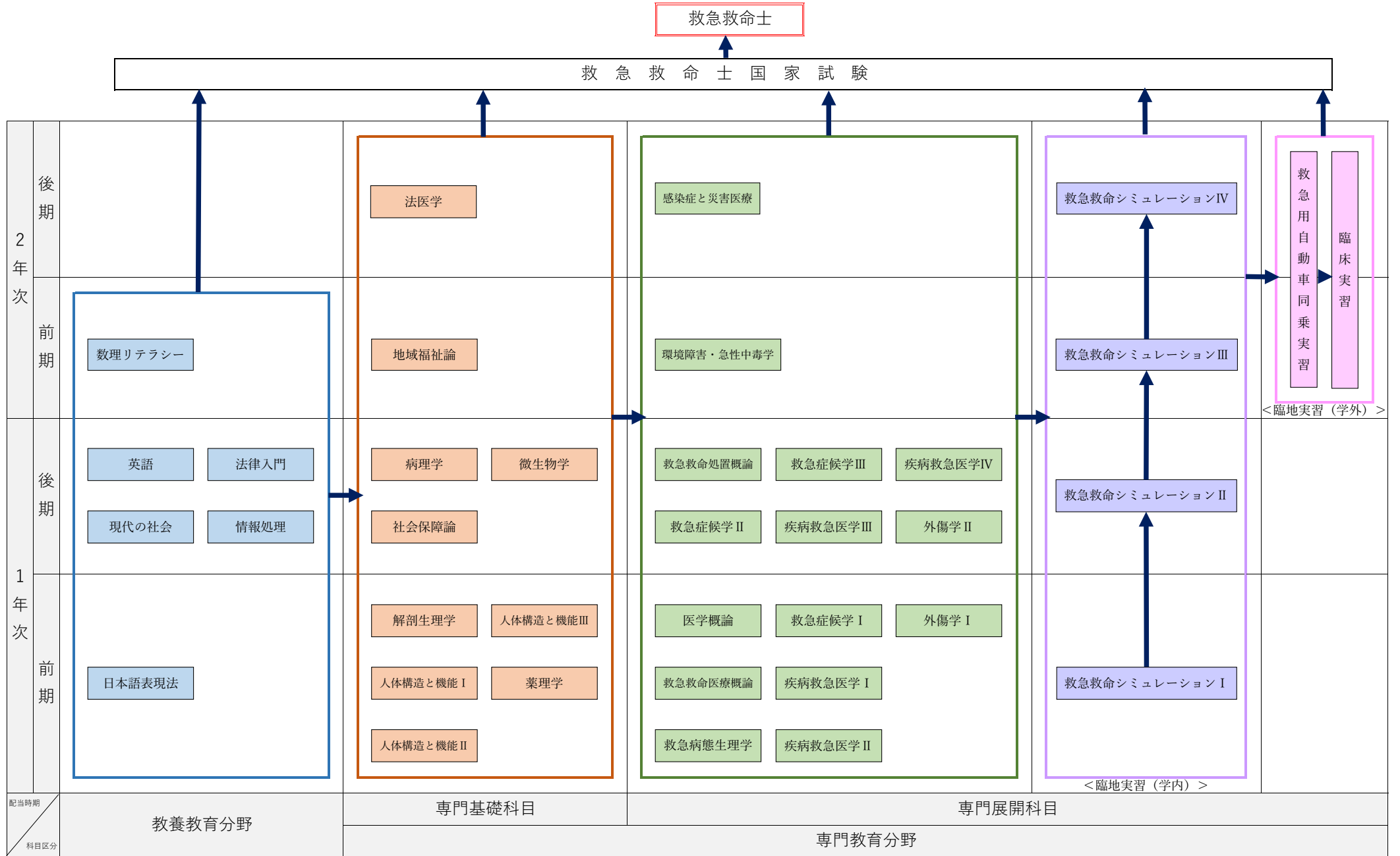
- 【基礎力】一般教養並びに各専門分野の基礎的能力
 - ①現代社会を生き抜くための教養を身につけ、命の尊さや人間としての在り方、多様な生き方について理解できる。
 - ②救急救命士としての基礎的な知識と、専門性を理解し応用できる素養を身につけている。
 - ③健康増進に努め、社会人としての責務を果たす心構えを身につけている。
- 【実践力】各分野の実際の場面に对应できる力
 - ①救急救命の現場で必要となる、正確な知識と技術を身につけている。
 - ②他者の痛みに寄り添い、苦痛の予防と軽減に貢献し、救急救命士としての倫理観に基づいて行動することができる。
 - ③救急救命のあらゆる現場において冷静沈着に適切な判断を下すために、何事に対しても最善を尽くす姿勢で取り組むことができる。
- 【人間関係力】専門職・社会人として必要なコミュニケーション能力
 - ①高いコミュニケーション能力と豊かな人間性を身につけ、周囲と良好な人間関係を築くことができる。
 - ②救急救命士の役割・責任と多職種連携の重要性を理解し、チーム医療の一員として他者との連携、協働に努めることができる。
- 【生涯学習力】生涯にわたって学び、成長できる力
 - ①学修内容に興味や関心を持ち、主体的に取り組むことができる。
 - ②課題や目標を自ら設定し、課題の克服や目標達成に取り組むことができる。
 - ③自身の専門的な知識や技術の水準を維持・向上するために研鑽を積み、自己の成長に努めることができる。
- 【地域理解力】地域・文化の多様性を理解し、地域に貢献できる力
 - ①地域に貢献する救急救命士としての責任を理解し、使命感を持って行動することができる。
 - ②進歩する医療と高齢社会の中で、時代や地域のニーズに応じながら、適切な救命行為をするための能力を身につけている。

救急救命学科 カリキュラムマップ

学修成果 : 1 基礎力 2 実践力 3 人間関係力 4 生涯学習力 5 地域理解力
学修成果とは、学生がその授業科目で何ができるようになったかを表すものです。 ●は、各授業科目が学修成果の1～5のどれに当てはまるかを表すものです。

科目区分	授業科目の名称	授業回数	履修年次				学修成果					単位数					
			1年次		2年次		1	2	3	4	5	必修	選択	自由			
			前	後	前	後											
教養教育分野	人間と文化	日本語表現法	15	○				●		●				1			
		英語	15		○				●		●				1		
	人間と社会	現代の社会	15		○				●			●	●		2		
		法律入門	15		○				●			●			2		
	人間と科学	情報処理	15		○				●			●			1		
		数理リテラシー	15			○			●			●			1		
専門基礎科目	人体の構造と機能	解剖生理学	8	○				●	●						1		
		人体構造と機能Ⅰ	8	○				●	●						1		
		人体構造と機能Ⅱ	8	○					●	●					1		
		人体構造と機能Ⅲ	8	○					●	●					1		
	疾患の成り立ちと回復の過程	薬理学	8	○					●	●					1		
		病理学	8		○				●	●					1		
		微生物学	8		○				●	●					1		
		法医学	8			○			●	●					1		
	健康と社会保障	社会保障論	8		○				●	●			●		1		
		地域福祉論	8			○			●	●			●		1		
	専門展開科目	救急医学概論	医学概論	10	○				●	●	●	●				1	
			救急救命医療概論	20	○				●	●	●	●				2	
救急救命処置概論			20		○				●	●		●	●		2		
感染症と災害医療			10			○			●	●		●	●		1		
救急症候・病態生理学		救急病態生理学	20	○					●	●		●			2		
		救急症候学Ⅰ	20	○					●	●		●			2		
		救急症候学Ⅱ	20		○				●	●		●			2		
		救急症候学Ⅲ	20		○				●	●		●			2		
疾病救急医学		疾病救急医学Ⅰ	20	○					●	●	●	●			2		
		疾病救急医学Ⅱ	20	○					●	●	●	●			2		
		疾病救急医学Ⅲ	20		○				●	●	●	●			2		
		疾病救急医学Ⅳ	20		○				●	●	●	●			2		
外傷救急医学		外傷学Ⅰ	20	○					●	●		●			2		
		外傷学Ⅱ	20		○				●	●		●			2		
環境障害・急性中毒学		環境障害・急性中毒学	10			○			●	●		●			1		
臨地実習		救急救命シミュレーションⅠ	75	○					●		●	●			5		
	救急救命シミュレーションⅡ	75		○				●		●	●			5			
	救急救命シミュレーションⅢ	75			○				●	●	●	●		5			
	救急救命シミュレーションⅣ	75				○			●	●	●	●		5			
	臨床実習	20日			○				●	●	●	●		4			
	救急用自動車同乗実習	5日				○			●	●	●	●		1			
卒業要件：必修70単位												70	-	-			

救急救命学科 カリキュラムツリー



2023年度 救急救命学科1年生 年間予定表

前期

		日	月	火	水	木	金	土
4月								1
	2	3	4	5	6	入学式	7 オリエンテーション	8
	9	10 AM:健康診断 PM:オリエンテーション	11	12	13	1	1	15
	16	17	18	19	20	2	2	22
	23	24	25	26	27	3	3	29
	30	1	2	3	4	5	6	
5月	7	8	9	10	11	4	4	13
	14	15	16	17	18	5	5	20
	21	22	23	24	25	6	6	27
	28	29	30	31	1	7	7	3
6月	4	5	6	7	8	8	8	10
	11	12	13	14	15	9	9	17
	18	19	20	21	22	10	10	24
	25	26	27	28	29	11	11	1
7月	2	3	4	5	6	12	12	8
	9	10	11	12	13	13	13	15
	16	17	18	19	20	14	14	22
	23	24	25	26	27	15	15	29
	30	31	予備日	1	2	3	4	5
8月	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28	29	30	31	1	2	
9月	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28	29	30	

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。
 ※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。
 ※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

2023年度 救急救命学科1年生 年間予定表

後期

		日	月	火	水	木	金	土						
10月	1		2	2	3	2	4	2	5	2	6	2	7	
	8		9		10	3	11	3	12	3	13	3	14	
	15		16	3	17	4	18	4	19	4	20	4	21	
	22		23	4	24	5	25	5	26	5	27	⁵ PMせいよう祭準備	28	せいよう祭
	29		30	5	31	6	1	6	2	6	3		4	
11月	5		6	6	7	7	8	7	9	7	10	6	11	
	12		13	7	14	8	15	8	16	8	17	7	18	
	19		20	8	21	9	22	9	23		24	8	25	
	26		27	9	28	10	29	10	30	9	1	9	2	
12月	3		4	10	5	11	6	11	7	10	8	10	9	
	10		11	11	12	12	13	12	14	11	15	11	16	
	17		18	12	19	13	20	13	21	12	22	12	23	
	24		25		26		27		28		29		30	
	31		1		2		3		4	13	5	13	6	
1月	7		8		9	14	10	14	11	14	12	14	13	
	14		15	13	16	15	17	15	18	15	19	15	20	
	21		22	14	23	月15	24	予備日	25	定期試験	26	定期試験	27	
	28		29	定期試験	30	定期試験	31		1		2		3	
2月	4		5	不合格者発表	6		7		8	再試験	9	再試験	10	
	11		12		13	再試験	14		15		16		17	
	18		19		20		21		22		23		24	
	25		26		27		28		29		1		2	
3月	3		4		5		6		7		8		9	
	10		11		12		13		14		15		16	
	17		18		19	(卒業式)	20		21		22		23	
	24		25		26		27		28		29		30	
	31													

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。
 ※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。
 ※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HCU-01				
	●		●							
科目名	日本語表現法				単位認定者	吉田 理		試験(筆記)	30 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題(課題文1)	20 %
							授業時間数		30 時間	授業内課題(課題文2)
				授業形態	演習	授業回数			15 回	受講態度
授業の概要	書き言葉と話し言葉における日本語運用の基本を学び、論理的なコミュニケーションの手段である言語表現を効果的に実現する基礎能力を養う。まず日本語の特徴的な知識について学び、日本語運用の基本を身に付ける。その上で、書き言葉・話し言葉等の様々な表現行為に触れ、自らも表現し、相手に伝わる表現について実践的理解を深める。具体的な場面で適切な表現方法を実際に考えることで、大学や社会で必要となる日本語表現の様々なスキルを獲得することを目指す。									
到達目標	自分の考えを適切な言葉で表現・伝達できる力を身につけることを目標とする。具体的には、 ・相手が発するメッセージを受け止めながら、場面に応じた意思の表現・伝達ができるようになる。 ・目的に合わせた文章(文書)作成ができるようになる。									
学修者への期待等	日本語に興味を持ち、自分の身の回り(周り)で使われている「ことば」に敏感になること。授業をその都度理解し、疑問な点はすぐに解決できるよう、集中して受講のこと。問題演習を通して日本語力(語彙力)を身につけていきましょう。なお、単位認定試験についてはマークシート式による実施を予定している。									
回	授業計画				準備学修					
1	「日本語表現法」ガイダンス(日本語とは何か)				当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分)					
2	日本文の概要1:現代文の成り立ち [テキスト言葉と表現編]				当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分)					
3	日本文の概要2:古典文法(漢文、古文) [テキスト言葉と表現編 1.文法(1)古典文法]				当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分)					
4	日本文の概要3:現代文法 [テキスト言葉と表現編 1.文法(2)口語文法]				当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分)					
5	日本文の概要4:現代文法つづき(品詞分類)				当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分)					
6	現代文の修辞:原稿用紙の使い方など 実践1:課題文1を書く(400字)…主題は当日指示				当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分)					
7	実践1の添削指導 語彙1:辞書語彙…漢字と対義語・類義語				当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分)					
8	現代文の修辞:表記法(句読点、現代仮名遣い、送り仮名)				当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分)					
9	文章の作成1:公用文作成の要領[テキスト言葉と表現編 4.表現(3)]				当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分)					
10	文章の作成2:実用文の作成 [テキスト言葉と表現編 4.表現(5)]				当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分)					
11	敬語1:種類と働き、尊敬語と謙譲語 [テキスト言葉と表現編 4.表現(12)]				当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分)					
12	敬語2:謙譲語と丁寧語 [テキスト言葉と表現編 4.表現(12)]				当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分)					
13	800字作成要領 実践2:課題文2を書く(800字)…主題は当日指示				当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分)					
14	実践2の添削指導 語彙2:辞書語彙…その他(ことわざ・四字熟語・慣用句)				当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分)					
15	語彙3:新聞語彙 現代文の修辞補足:修辞法と表記法				当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分)					
教科書	「原色シグマ新国語便覧 ビジュアル資料 増補3訂版(シグマベスト)」国語教育プロジェクト編著、文英堂									
参考文献	「社会人のためのビジュアルカラー国語百科」大修館書店編集部、大修館書店(2,200円)									
備考	進捗状況や理解度に応じ、順序や内容を変更する場合がある。また適宜テキストの文学史の部分にも触れていく。 授業内課題である課題文(含事後指導)計2種は、単位認定の必須事項として成績に加える(未提出・不参加は認定しない)。受講態度は、出席状況のほか、私語・飲食・電子機器操作・居眠りの禁止等を想定している。なお、受講ノートとして大学ノートを用意すること(試験は持ち込み可とするが、コピー用紙の切り貼りやルーズリーフ等は認めない)。 また、何らかの事情でオンデマンド講義に切り替わった場合には、試験を中止し課題文のみで評価することもあり得るので心得ておくこと。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング		
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HCU-02		
	●		●					
科目名	英語				単位認定者	相田 明子		評価の方法 授業内課題 (小テスト、 単語テスト、 ロールプレイ 等) 80 % 受講態度 20 %
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	
				授業形態	演習	授業時間数	30 時間	
						授業回数	15 回	
授業の概要	日常会話や専攻分野の仕事・職場で頻りに用いられる基本表現を「話し」・「聞く」ことができる力を養い、基礎的な英語コミュニケーション能力を修得する。 救急救命の現場での状況確認やバイタルチェック、病状確認、身元確認、傷病歴確認、搬送準備や付添人への説明等、必要となる語彙やフレーズを学び、様々な場面を想定したロールプレイにより、救急時に英語で対応するための基礎力を身につける。							
到達目標	医療現場で使用する基本的な英語（表現）について、必要に応じて「話し」・「聞く」ことが出来る。							
学修者への期待等	集中して英語を聴き、臆することなく英語を声に出すこと。また、ロールプレイやグループワークを行う場面では、積極的な取り組みが期待される。							
回	授業計画				準備学修			
1	授業のイントロダクション、あいさつの表現 Unit 1の導入 単語① Body Parts				シラバスをよく読んでおく、(概ね10分)			
2	Unit 1: 受診の予約、電話での対応 グループワーク、単語①テスト				音声ストリーミングサイトからUnit 1の内容を聞いておくこと。単語テストの準備をする。(概ね40分)			
3	Unit 2: 受診、患者の病状や既往歴を尋ねる(1) グループワーク 単語② Symptoms and Injuries				音声ストリーミングサイトからUnit 2の内容を聞き、本文を書き出しておく(概ね40分)			
4	Unit 2: 受診、患者の病状や既往歴を尋ねる(2) リスニング練習 単語②テスト				音声ストリーミングサイトからUnit 2の内容を聞きながら課題にとりくむ。単語テストの準備をする(概ね40分)			
5	Unit 3: 問診 体温・血圧の表現 グループワーク 単語③ Department				音声ストリーミングサイトからUnit 3の内容を聞き、本文を書き出しておく(概ね40分)			
6	Unit 3: 診察 痛みの表現、リスニング練習 単語③ テスト				音声ストリーミングサイトからUnit 3の内容を聞きながら課題にとりくむ。単語テストの準備をする(概ね40分)			
7	Unit 1~3 基本表現まとめの小テスト、ロールプレイ				小テスト、ロールプレイの準備をする(概ね60分)			
8	Unit 4: 薬の服用(1) グループワーク 単語④: medicines				音声ストリーミングサイトからUnit 4の内容を聞き、本文を書き出しておく(概ね40分)			
9	Unit 4: 薬の服用(2) リスニング練習 単語④: テスト				音声ストリーミングサイトからUnit 4の内容を聞きながら課題にとりくむ。単語テストの準備をする(概ね40分)			
10	Unit 8: 術前・術後(1) グループワーク				音声ストリーミングサイトからUnit 8の内容を聞き、本文を書き出しておく(概ね40分)			
11	Unit 8: 術前・術後(2) リスニング練習				音声ストリーミングサイトからUnit 8の内容を聞きながら課題にとりくむ。(概ね40分)			
12	Unit 9: 待合室での会話(1) 痛みやケガの状態を説明する				音声ストリーミングサイトからUnit 9の内容を聞き、本文を書き出しておく(概ね40分)			
13	Unit 9: 待合室での会話(2) 小テストとロールプレイ: 痛みやケガの状態を表す表現				音声ストリーミングサイトからUnit 9の内容を聞きながら課題にとりくむ。小テスト、ロールプレイの準備をする(概ね40分)			
14	医療現場で使用する英語—まとめ 救急救命の現場での対応—リスニング、スピーキング練習				学修した表現をまとめておく(概ね40分)			
15	医療現場で使用する英語と救急救命の現場での対応—小テストとロールプレイ				小テスト、ロールプレイの準備をする(概ね60分)			
教科書	「Introduction to Medical English」 稲富百合子/Dion Clingwall 著、松柏社 その他、教員が作成したプリントを随時配布							
参考文献	必要に応じて授業中に提示する							
備考	本科目はアクティブラーニングを取り入れた学習法とする。シラバスの内容は授業の進行状況によって変更する場合がある。また、状況により遠隔授業になる場合がある。							

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HS0-03				
	●			●	●					
科目名	現代の社会				単位認定者	吉田 理		試験(筆記)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	※筆記試験はマークシート(60%)とレポート(20%)を同時内に実施 ※詳細は備考欄を参照すること。	
				授業形態	講義	授業時間数	30 時間		受講態度	20 %
							授業回数		15 回	
授業の概要	現代の日本が世界の中でどのような立場にあるか、初めに日本及び主な国の文化・思想・宗教ならびに近代の歴史を学ぶことから理解をする。そのうえで政治・経済の視点を軸にして現代の日本の様々な問題点について学修し、現代の社会を生きるために不可欠な基本知識を身につけ、社会生活において適切な選択や判断ができることを目指す。									
到達目標	取り上げるテーマは、いずれも社会人として当然備うるべき常識と考えられる事項である。社会生活自体はもちろんのこと就職活動における面接等でそれらについて問われた際に、概略と自身の考えを述べられるようになることを目標とする。									
学修者への期待等	「自立した大人」になるための下地を作ってほしいという観点から、各人の専攻に関わらず社会人として当然知っておくべき事項を取り上げる。一般的な知識を修得し、良き職業人を目指すという意欲をもって受講してほしい。									
回	授業計画				準備学修					
1	「現代の社会」導入(現代世界概観-特に文化と思想・宗教、歴史)				私たちが取り巻く現代社会について、その特徴を列挙し考察すること。当日配信する確認テストに備えること。(30分程度)					
2	現代社会の誕生(特に大衆社会)				前回の講義内容(「現代の社会」導入)を復習し、当日配信する確認テストに備えること。(1時間程度)					
3	現代社会の特質(特に生命科学と情報技術)				前回の講義内容(現代社会の誕生)を復習し、当日配信する確認テストに備えること。(1時間程度)					
4	現代社会と人間の本質(特に自己形成)				前回の講義内容(現代社会の特質)を復習し、当日配信する確認テストに備えること。(1時間程度)					
5	日本国憲法の基本的性格(特に社会権・参政権)				前回の講義内容(現代社会と人間の本質)を復習し、当日配信する確認テストに備えること。(1時間程度)					
6	日本の政治機構と政治参加(特に地方自治と政党政治)				前回の講義内容(日本国憲法の基本的性格)を復習し、当日配信する確認テストに備えること。(1時間程度)					
7	現代の経済社会(特に財政と金融) 附、レポート作成に当たって(説明)				前回の講義内容(日本の政治機構と政治参加)を復習し、当日配信する確認テストに備えること。(1時間程度)					
8	少子高齢化と国民の福祉(その原因と対策、社会保障の概要について)				前回の講義内容(現代の経済社会)を復習し、当日配信する確認テストに備えること。(1時間程度)					
9	消費者問題(消費者問題の歴史、消費者を保護するための制度について)				前回の講義内容(少子高齢化と国民の福祉)を復習し、当日配信する確認テストに備えること。(1時間程度)					
10	労働問題(日本の労働事情や労働関係法規・制度、労働格差について) 附、レポート作成に当たって(再度)				前回の講義内容(消費者問題)を復習し、当日配信する確認テストに備えること。(1時間程度)					
11	現代社会の特質・補足(生命科学)				前回の講義内容(労働問題)を復習し、当日配信する確認テストに備えること。(1時間程度)					
12	日本の政治機構と政治参加・補足1(選挙制度と世論)				前回の講義内容(生命科学)を復習し、当日配信する確認テストに備えること。(1時間程度)					
13	日本の政治機構と政治参加・補足2(裁判と司法権)				前回の講義内容(選挙制度と世論)を復習し、当日配信する確認テストに備えること。(1時間程度)					
14	現代の経済社会・補足(日本の財政課題)				前回の講義内容(裁判と司法権)を復習し、当日配信する確認テストに備えること。(1時間程度)					
15	日本の社会保障制度と環境問題 附、レポート作成に当たって(最終)				前回の講義内容(日本の財政課題)を復習し、当日配信する確認テストに備えること。(1時間程度)					
教科書	「2023小論文頻出テーマ解説集 現代を知るplus」第一学習社									
参考文献	「別冊NHK 100分de名著 読書の学校 特別授業 君たちはどう生きるか」池上彰著 (NHK出版(2017)) 各項目について報道している日刊新聞(購読していない場合は各社のweb版でも可。ただし不特定者によるまとめ記事はむしろ不可)									
備考	講義は全て遠隔(オンデマンド)で実施するが、板書を中心に進めるのでノートを準備すること。なお、理解の妨げとなるので早送りなどしないこと。 試験は、同時内にマークシート解答(60%)とレポート作成(20%)を実施する。レポート作成の要領については講義内で説明するので集中して聞くこと。なお、持込一切不可である。 受講態度は、確認テスト解答の返信確認で判断するが、白紙など不誠実なものは減点或いは評価しない。(課題の解説は次回講義の際に講義内で行なう)。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●			●	

科目ナンバリング
CO-0-HS0-04

科目名	法律入門				単位 認定者	鈴木 一樹		評価の方法	授業内 課題等	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位		受講態度	20 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	社会生活をしていく上で必要な基本的な法律について学修する。特に日常の社会生活・大学生活に関係の深い様々な問題を取り上げて、問題点、解決方法、回避方法など、具体的な事例を通じて理解し身につけていく。									
到達目標	社会問題を考える際の土台となる法律の基本的な用語や概念を理解し、説明できる。身近な法律問題の学習を通じて、自ら問題を解決するための思考方法を養う。									
学修者への 期待等	聞き慣れない用語や概念が多いと思いますので、復習を中心に取り組んで下さい。 法律用語と日常用語の違い、授業内で扱った事例や問題は、重点的に復習すること。その際、結論だけでなく理由も説明できるようにしておくこと。									
回	授業計画					準備学修				
1	法律の種類と法律を学ぶ意味									
2	憲法（1）基本的人権 ー平等権、精神的自由等ー									
3	憲法（2）基本的人権 ー経済的自由、その他の人権ー									
4	憲法（3）人権総括、統治機構									
5	民法（1）総則									
6	民法（2）物権									
7	民法（3）債権（契約等）									
8	民法（4）債権（不法行為）									
9	民法（5）親族・相続									
10	刑法（1）総論									
11	刑法（2）各論									
12	会社法（1）総論、株式									
13	会社法（2）機関、組織再編									
14	消費者法									
15	まとめ（小テスト）									
教科書	特に指定しない。必要に応じてレジュメや資料を配布する。									
参考文献	適宜講義内で紹介する。									
備考	講義は全て遠隔（オンデマンド）で実施する。講義内容は、進度に応じて変更する場合がある。各回の授業内課題については、その回で学んだことや印象に残ったことを記述したものとする（様式は特に問わない）。また、授業内課題の評価については、この他第15回実施の小テストの結果も含むものとする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HSC-01				
	●			●						
科目名	情報処理				単位 認定者	杉崎 新一		授業内課題等	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の 方法	受講態度	30 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	
				授業回数		15 回				
授業の概要	現代のコミュニケーションツールとして重要な位置を占めるパソコンを用いて、文書作成やデータ処理など情報伝達・発信方法の基礎を学ぶ。加えて、パソコンをコミュニケーションツール、ビジネスツールとして活用する能力を養う。また、パソコンを使う者のマナー、情報保護の意識等も学修する。									
到達目標	<p>パソコンの基本操作を修得し、業務でWord・Excel・PowerPointが効率的に使用できることを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆Word:書式設定や印刷設定を利用した基本的な文書・表・図形・写真などを含む文書が作成できる。 ◆Excel:書式設定をして表を整えることができ、適切な計算式や関数、グラフを作成できる。 ◆PowerPoint:プレゼンテーションを理解し、訴求力あるスライド作成とスライドショー実施ができる。 									
学修者への期待等	<p>パソコンの基本操作から行う。操作が苦手な者は、これを機に操作ができるようにすること。操作ができる者であっても自己流の操作を行うことが多いので、初心に戻り取り組み、自分にとって不足しているスキルはより向上するよう学修すること。授業を休むと操作がわからなくなり、次回以降の授業にも影響するため注意すること。操作がわからない部分はそのままにせず、演習中に巡回をするので質問して確認すること。</p>									
回	授業計画				準備学修					
1	基礎知識:PCの操作・Windowsの基本操作				<p>【事前】 マウス操作・入力操作は各自できるようにして授業に臨むこと。特に入力操作が苦手な場合は、タイピングの練習をして技術を向上させること。(30分程度)</p> <p>【事後】 Word・Excelは、はじめは基礎内容から入り、段階的に応用内容に進んでいくため、各回の内容をしっかりと身につけ、次の授業へ臨むこと。授業内に完成しなかった作成物は、次回までに完成しておくこと。</p> <p>これまでの経験によってパソコンのスキル(技能)は、各人で異なるため、自分の現在のスキルを把握し、学修したパソコン操作が身につけていないと感じる場合は、授業中に作成したものを繰り返し操作して復習すること。(各自のスキルにより30分～1時間程度)</p>					
2	情報保護:モラルとセキュリティに関する知識 Word:文書の書式設定・印刷設定									
3	Word:入力方法・文書入力・ページ設定									
4	Word:書式設定									
5	Word:図・表を取り入れた文書の作成									
6	Word:課題作成(これまでに学んだ内容を活用)									
7	Excel:入力と編集方法・数式や関数・書式設定・表示形式									
8	Excel:相対参照と絶対参照・表の編集・印刷設定									
9	Excel:グラフ作成									
10	Excel:基本的な関数(MAX・MIN・COUNT・COUNTAなど)									
11	Excel:基本的な関数(IF・AND・ORなど)・表示形式・日付関連の関数									
12	Excel:課題作成(これまでに学んだ内容を活用)									
13	PowerPoint:スライドの作成・オブジェクトの挿入									
14	PowerPoint:アニメーションの設定・スライドショーの実施									
15	PowerPoint:課題作成(これまでに学んだ内容を活用)									
教科書	「30時間アカデミック Office2021 Windows11対応」実教出版									
参考文献	進行に応じてプリントを配付する。									
備考	課題は個別に添削をし、誤った課題を指導する。次回講義の際に総じて解説を行うこともある。授業内容や順序は、クラス全体の操作の進捗、使用教室により調整する場合がある。当科目は情報処理室で実施する。パソコンの操作手順を示す際に講師の操作画面を各学生のパソコン画面へ映す授業支援システム(SkyClassesMng)を利用する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-1-HAP-01				
	●	●								
科目名	解剖生理学				単位認定者	小野寺 健		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内 課題等	20 %
					授業形態	講義	授業時間数		16 時間	受講態度
							授業回数		8 回	
授業の概要	<p>生命の最小単位は細胞であり、ヒトの身体は数十兆個の細胞から構成されている。人体を構成する要素について、細胞、組織、器官、体液等の仕組みや機能、また、体表からみる人体の構造についての基礎的な知識を修得する。また、生命を維持するために必要な仕組みに関して、栄養と代謝、ホメオスタシスの観点から学ぶ。人体の構造、構成、生命維持に係る基礎知識をもとに、人体を構成する各器官の基本的構造と機能及び相互関係について、系統的かつ総合的に学修する。</p>									
到達目標	<p>人体の正常な形態や構造を、ミクロからマクロに及ぶ観点で理解する。</p>									
学修者への期待等	<p>人体の構造と機能について学ぶことは救急救命士になる上で極めて重要になってくる。十分な理解とともに体得して欲しい。</p>									
回	授業計画				準備学修					
1	解剖生理学 (序論)				予めプリントを配布するので見ておくこと (おおよそ15分)					
2	細胞について				予めプリントを配布するので見ておくこと (おおよそ15分)					
3	組織について (上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織)				予めプリントを配布するので見ておくこと (おおよそ15分)					
4	血液① (成分と機能)				予めプリントを配布するので見ておくこと (おおよそ15分)					
5	血液② (血液凝固、血液型)				予めプリントを配布するので見ておくこと (おおよそ15分)					
6	神経系について				予めプリントを配布するので見ておくこと (おおよそ15分)					
7	循環器について				予めプリントを配布するので見ておくこと (おおよそ15分)					
8	消化器について				予めプリントを配布するので見ておくこと (おおよそ15分)					
教科書	適宜、プリントを配布する。									
参考文献	適宜、参考資料を配付する。									
備考	小テスト・レポート課題は回収後、採点し、次回総括する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-1-HAP-02				
	●	●								
科目名	人体構造と機能 I				単位認定者	櫻井 雅浩		試験(筆記)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	20 %
					授業形態	講義	授業時間数		16 時間	
				授業回数		8 回				
授業の概要	筋・骨格系、神経系、皮膚系について学修する。四肢の主な骨格筋や骨・関節、靭帯・腱、脊柱の構造等、筋・骨格系の構造と機能について学ぶ。神経系は、神経系の構成と役割、中枢神経系、末梢神経系、伝導路、自律神経系、脳循環、意識、反射等の知識を修得する。皮膚系では、皮膚を構成する表皮、真皮、皮下組織や皮膚付属器等の構造とその役割について学修する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 頭部の構造と機能が説明できる。 2. 脳、体性、自律、及び末梢神経の機能が説明ができる。 3. 主な神経症状が説明できる。 4. 骨と筋肉、及び頸部の構造と機能が説明できる。 5. 上肢、手、脊椎、骨盤、及び大腿の構造と機能が説明できる。 6. 膝関節、下腿、及び足の構造と機能が説明できる。 7. 皮膚の構造と機能が説明できる。 									
学修者への期待等	各講義の予習、および復習を行ってください。復習は講義後1～2日目に行ってください。特に復習の習慣をつけて下さい。									
回	授業計画				準備学修					
1	頭部の構造と機能				第1回講義内容の30分間の予習					
2	脳神経の種類と機能				第2回講義内容の30分間の予習、及び第1回講義内容の30分間の復習					
3	体性神経、自律神経、及び末梢神経の機能				第3回講義内容の30分間の予習、及び第2回講義内容の30分間の復習					
4	神経系総論（意識障害、頭痛、めまい）				第4回講義内容の30分間の予習、及び第3回講義内容の30分間の復習					
5	骨と筋肉、及び頸部の構造と機能				第5回講義内容の30分間の予習、及び第4回講義内容の30分間の復習					
6	肩、及び上腕の構造と機能				第6回講義内容の30分間の予習、及び第5回講義内容の30分間の復習					
7	前腕、手、脊椎、骨盤、及び大腿の構造と機能				第7回講義内容の30分間の予習、及び第6回講義内容の30分間の復習					
8	膝関節、下腿、足の構造と機能、皮膚の構造と機能				第8回講義内容の30分間の予習、及び第7回講義内容の30分間の復習					
教科書	「救急救命士標準テキスト 改訂版第10版」救急救命士標準テキスト編集委員会、へるす出版									
参考文献	資料の配布を行うので、その内容について良く学修して下さい。									
備考	講義内容の学修を授業以外でも行わせ、講義内容の理解と修得を高める。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-1-HAP-03				
	●	●								
科目名	人体構造と機能Ⅱ				単位認定者	櫻井 雅浩		試験(筆記)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	20 %
					授業形態		講義		授業時間数	16 時間
							授業回数			8 回
授業の概要	呼吸系、消化系、循環系について学修する。呼吸系は大きく肺系（気道系、肺胞系）と胸郭系（肋骨系、横隔膜系、腹膜系）に分かれている。呼吸系の構成と役割、気道、胸郭、肺、肺胞でのガス交換、血液での酸素の動き、呼吸の調節等についての知識を修得する。消化系については、消化器、口腔・咽頭、消化管、肝臓・胆道系、膵臓、腹膜・腹腔等について学ぶ。循環系は血液を送り出し、身体のすみずみまで酸素、栄養素やホルモンなどを搬送し、二酸化炭素、代謝産物などを運び去ることにより、生体の恒常性を保ち、生命維持のための重要な役割を果たしている。循環系の構成と役割、心臓、脈管、循環の制御についての基礎的な知識を修得する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 気道と肺の構造と機能が説明できる。 2. 肺循環と呼吸運動が説明できる。 3. 呼吸の仕組み、呼吸機能、及び酸と塩基について説明ができる。 4. 消化系（腹壁、食道、胃十二指腸、腸、肝臓、及び膵臓）の構造と機能が説明できる。 5. 上下消化管検査、及びピロリ菌検査について説明ができる。 6. 単径部の構造が説明できる。 7. 循環系（心臓、及び血管）の構造と機能が説明できる。 									
学修者への期待等	各講義の予習、および復習を行ってください。復習は講義後1～2日目に行ってください。特に復習の習慣をつけて下さい。									
回	授業計画				準備学修					
1	気道、及び肺の構造と機能				第1回講義内容の30分間の予習					
2	肺循環、及び呼吸運動				第2回講義内容の30分間の予習、及び第1回講義内容の30分間の復習					
3	呼吸の仕組み、呼吸機能、及び酸と塩基				第3回講義内容の30分間の予習、及び第2回講義内容の30分間の復習					
4	消化系（腹壁、及び食道）の構造と機能、上部消化管の検査				第4回講義内容の30分間の予習、及び第3回講義内容の30分間の復習					
5	ピロリ菌検査法、消化系（胃、十二指腸、肝臓、及び膵臓）の構造と機能				第5回講義内容の30分間の予習、及び第4回講義内容の30分間の復習					
6	消化系（小腸、大腸、及び直腸）の構造と機能、下部消化管の検査、単径部の構造				第6回講義内容の30分間の予習、及び第5回講義内容の30分間の復習					
7	循環系（心臓）の構造と機能				第7回講義内容の30分間の予習、及び第6回講義内容の30分間の復習					
8	血管系の構造と機能				第8回講義内容の30分間の予習、及び第7回講義内容の30分間の復習					
教科書	「救急救命士標準テキスト 改訂版第10版」救急救命士標準テキスト編集委員会、へるす出版									
参考文献	資料の配布を行うので、その内容に付いて良く学修して下さい。									
備考	講義内容の学修を授業以外でも行わせ、講義内容の理解と修得を高める。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-1-HAP-04				
	●	●								
科目名	人体構造と機能Ⅲ				単位認定者	櫻井 雅浩		試験(筆記)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	20 %
							授業時間数		16 時間	
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	生殖系、内分泌系、血液・免疫系、泌尿系、感覚系について学修する。生殖系は、男性生殖器と女性生殖器、性周期の知識を修得する。内分泌系では、内分泌と外分泌、内分泌の器官とその役割について、血液・免疫系では、血液、血球、血漿、血液型、骨髄、脾臓、止血と凝固、免疫について学ぶ。泌尿系では、腎臓や尿路等、泌尿系を構成する器官とその役割、尿生成の過程について、感覚系では、感覚系の構成と役割、視覚、聴覚・平衡感覚、嗅覚、味覚、体性感覚等の知識を身につける。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 泌尿器系、及び生殖系構造と機能が説明できる。 2. 内分泌系の構造と機能が説明できる。 3. 血液の成分と機能が説明できる。 4. 出血と止血について説明ができる。 5. 感覚系（嗅覚、視覚、味覚、聴覚、体性感覚）の構造と機能が説明できる。 6. 感覚系（平衡感覚、発声、嚥下、唾液、鼻汁）の構造と機能が説明できる。 									
学修者への期待等	各講義の予習、及び復習を行ってください。復習は講義後1～2日目に行ってください。特に復習の習慣をつけて下さい。									
回	授業計画				準備学修					
1	泌尿器系の構造と機能				第1回講義内容の30分間の予習					
2	泌尿器系、及び生殖器系の構造と機能				第2回講義内容の30分間の予習、及び第1回講義内容の30分間の復習					
3	内分泌系の構造と機能				第3回講義内容の30分間の予習、及び第2回講義内容の30分間の復習					
4	生体の防御機構				第4回講義内容の30分間の予習、及び第3回講義内容の30分間の復習					
5	血液の成分と機能				第5回講義内容の30分間の予習、及び第4回講義内容の30分間の復習					
6	出血と止血の病態				第6回講義内容の30分間の予習、及び第5回講義内容の30分間の復習					
7	感覚系Ⅰ（嗅覚、視覚、味覚、聴覚、体性感覚）				第7回講義内容の30分間の予習、及び第6回講義内容の30分間の復習					
8	感覚系Ⅱ（平衡感覚、発声、嚥下、唾液、鼻汁）				第8回講義内容の30分間の予習、及び第7回講義内容の30分間の復習					
教科書	「救急救命士標準テキスト 改訂版第10版」救急救命士標準テキスト編集委員会、へるす出版									
参考文献	資料の配布を行うので、その内容について良く学修して下さい。									
備考	講義内容の学修を授業以外でも行わせ、講義内容の理解と修得を高める。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-1-PDR-01				
	●	●								
科目名	薬理学				単位認定者	柳澤 輝行		試験(筆記)	85 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	5 %
						授業時間数	16 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	薬理学の基礎的知識を修得し、生体と薬物との関わりを理解する。総論では、薬物の作用機序、薬物体内動態、薬効に影響する因子、副作用及び薬物の取扱い、管理、投与方法について学ぶ。各論では、様々な疾患に用いられる代表的な治療薬について、作用機序、特徴、副作用を理解する。また、救急救命処置に用いられる薬剤や注意を要する常用薬、重要な静脈内投与薬について、それぞれの薬理作用、使用方法、注意点を学修する。									
到達目標	救命救急の現場に出る前の基礎的な内容を薬理学と病態の原理原則からも理解し身につける。									
学修者への期待等	事前に教科書を熟読して、練習問題に目をとおしてくること。救急の現場で必須の中毒学は薬理学の関連領域であり、化学物質や有害物質に対するセンスも磨く。									
回	授業計画				準備学修					
1	薬理学総論1【Chapter1】 作用機序、受容体、濃度反応曲線、情報伝達系				作用機序：分子から細胞レベルまで、受容体、濃度反応曲線、情報伝達系（概ね1時間）					
2	薬理学総論2【Chapter1】 治療機序、薬物動態、薬物療法、副作用 等				治療機序：細胞から生体レベルまで、薬物動態、薬物療法、副作用、薬物の取扱い、管理、投与方法（概ね1時間）					
3	末梢神経系に作用する薬【Chapter2】				自律神経系薬総論、交感神経系薬、副交感神経系薬、アセチルコリン受容体、筋弛緩薬、局所麻酔薬（概ね1時間）					
4	中枢神経系に作用する薬【Chapter3】				中枢神経系薬総論、全身麻酔薬、抗不安薬、抗てんかん薬、鎮痛薬、抗精神病薬、抗うつ薬、抗躁鬱薬（気分安定薬）、パーキンソン病・認知症治療薬、薬物乱用（概ね1時間）					
5	循環器系に作用する薬1【Chapter4】				循環器系概要、動脈硬化、血管拡張薬、脳血管疾患治療薬、高血圧と降圧薬、虚血性心疾患治療薬、心不全治療薬（概ね1時間）					
6	循環器系に作用する薬2、体液・血液系に作用する薬【Chapter4】				抗不整脈薬、利尿薬、体液と輸液、貧血治療薬、造血因子、止血薬、抗血栓薬（概ね1時間）					
7	呼吸器系に作用する薬、消化器系に作用する薬【Chapter5】				抗ヒスタミン薬、気管支喘息治療薬、胃・十二指腸潰瘍治療薬、催吐薬、制吐薬、腸に作用する薬（概ね1時間）					
8	代謝・内分泌系疾患治療薬【Chapter6】				糖尿病治療薬、脂質異常症治療薬、肥満治療薬、痛風治療薬、骨粗鬆症治療薬、視床下部・下垂体ホルモン（概ね1時間）					
教科書	「休み時間のワークブック薬理学」柳澤輝行／小橋史・著、講談社									
参考文献	「救急救命士標準テキスト 改訂版第10版」救急救命士標準テキスト編集委員会、へるす出版 「なぜ薬理学を学び、教えるのか」URL http://hdl.handle.net/10097/53883 、柳澤輝行									
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-1-PDR-02				
	●	●								
科目名	病理学				単位認定者	鈴木 貴		試験(筆記)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	20 %
					授業形態	講義	授業時間数		16 時間	
				授業回数		8 回				
授業の概要	ヒトは、生態の構造、機能や代謝が様々な障害因子により正常範囲から逸脱した状態、すなわち病気になる。病理学とは、病気になった原因や発生機序を解明し、病気の診断を確定したり、患者の身体に生じている変化がどのようなものであるかを研究する学問である。救急救命の現場で必要となる、疾患、細胞傷害、炎症、循環障害、腫瘍、損傷と治癒に関する知識を身につけ、疾病の成り立ちを病理組織学的な観点から理解できるようにする。									
到達目標	まず病理学とはどのようなものかを理解する。次に病理学的用語を記憶し、重要な疾患を病理学的視点から説明できるようになる。									
学修者への期待等	授業は教科書の内容に沿い、覚えておくべき部分は授業中に指示するので、しっかり復習すること。									
回	授業計画				準備学修					
1	病理学とは何か				本講義のガイダンスであり、特別な予習は必要ない。					
2	腫瘍(総論)				教科書9章を読んでくる。(概ね1時間)					
3	腫瘍(各論:肺癌、胃癌、大腸癌、乳癌、前立腺癌等)				肺癌、胃癌、大腸癌、乳癌、前立腺癌等について、予習してくる。(概ね1時間)					
4	炎症、免疫、損傷治癒(総論)				教科書3、5、7章を読んでくる。(概ね1時間)					
5	炎症、免疫、損傷治癒(各論:胃炎、大腸炎、甲状腺炎、肝炎、肺炎等)				胃炎、大腸炎、甲状腺炎、肝炎、肺炎等について、予習してくる。(概ね1時間)					
6	循環障害				教科書4章、虚血性心疾患、脳血管障害について、予習してくる。(概ね1時間)					
7	細胞傷害、代謝異常				教科書2、10章を読んでくる。(概ね1時間)					
8	病理診断				教科書25章を読んでくる。(概ね1時間)					
教科書	「シンプル病理学(改訂第8版)」笹野公伸ほか、南江堂									
参考文献										
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-1-PDR-03				
	●	●								
科目名	微生物学				単位 認定者	山田 文也		試験(筆記)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の 方法	授業内 課題等	10 %
					授業形態	講義	授業時間数		16 時間	受講態度
							授業回数		8 回	
授業の概要	自然界には、細菌、真菌、寄生虫、ウイルス等あらゆる種類の微生物が生息している。多くの病原微生物が、ヒトや環境とどのように関わり合いながら、どのようにしてヒトに感染症を引き起こすのかを学修する。感染症の成り立ちについて、感染源、感染経路、宿主免疫と感染等の観点から学ぶ。また、病原性微生物の薬剤耐性についても理解する。救急救命の現場で、感染を防ぐための土台となる微生物学的基礎知識を修得する。									
到達目標	1. 感染症の原因となる病原微生物をあげ、それぞれの特徴について説明できる。 2. 微生物の形態や生理機能を理解し、病原性について説明できる。 3. 感染源・感染経路・感受性宿主の関係を理解し、感染予防策について説明できる。 4. 消毒、殺菌、滅菌方法を理解し、その適応と注意点を説明できる。 5. 病原微生物の抗菌剤への耐性機構を理解し、耐性菌について説明できる。									
学修者への 期待等	微生物学では、微生物が持つ生命現象そのものを理解する生物学的な側面と、感染症を理解する医学微生物学固有の側面とがあります。また各論については、必要な情報を厳選することに努力しますが、見たことも聞いたこともない微生物の名前や用語が多数出てくると思います、意欲をもって授業に望んでください。									
回	授業計画				準備学修					
1	微生物学総論 ①微生物学の歴史、②微生物の生物学的位置とその範囲、③微生物の基本的形態と大きさ				微生物の世界を紹介します。授業の資料等について復習に努めてください(30分)。					
2	細菌学総論 ①細菌の増殖と遺伝、②細菌とファージ 細菌学各論 I グラム陰性菌 (主な病原細菌の特徴と感染症)				細菌学の講義に入ります。事前に教科書の該当ページを読み授業に臨んでください (1時間)。また、授業後は配布された資料をノートにまとめるなど復習に努めてください (1時間)。					
3	細菌学各論 II ①グラム陽性菌 (主な病原細菌の特徴と感染症) 細菌とその周辺微生物 ①スピロヘータ、②マイコプラズマ、③レプトスピラ、④リケッチア、⑤クラミジア (微生物の特徴と感染症)				細菌学のまとめと周辺微生物についての講義を行います。事前に教科書の該当ページを読み授業に臨んでください (1時間)。また、授業後は配布された資料をノートにまとめるなど復習に努めてください (1時間)。					
4	ウイルス学総論 ①ウイルスの増殖と一般性状 ウイルス学各論 I ①DNAウイルス				ウイルスについての講義に入ります。事前に教科書の該当ページを読み授業に臨んでください (1時間)。また、授業後は配布された資料をノートにまとめるなど復習に努めてください (1時間)。					
5	ウイルス学各論 II ①RNAウイルス ウイルスとその周辺微生物 ①ウイロイド、②プリオン				ウイルス学のまとめと周辺微生物についての講義を行います。事前に教科書の該当ページを読み授業に臨んでください (1時間)。また、授業後は配布された資料をノートにまとめるなど復習に努めてください (1時間)。					
6	真菌学 ①真菌の構造と一般性状、②真菌による疾患 原虫学・寄生虫学 ①原虫の種類と感染、②寄生虫の種類と感染				真核生物について講義を行います。事前に教科書の該当ページを読み授業に臨んでください (30分)。また、授業後は配布された資料をノートにまとめるなど復習に努めてください (1時間)。					
7	微生物と薬剤耐性 ①細菌の薬剤耐性、②ウイルスの薬剤耐性、③原虫の薬剤耐性 感染防御と免疫 ①自然免疫と獲得免疫、②免疫不全				微生物の感染により起こる疾患の対策についての基礎的な講義を行います。事前に教科書の該当ページを読み授業に臨んでください (1時間)。また、授業後は配布された資料をノートにまとめるなど復習に努めてください (1時間)。					
8	微生物と感染制御 ①殺菌・消毒・滅菌、②PPE (個人防護具)、③BSL (バイオセーフティーレベル)				消毒等の微生物制御についての基礎的な講義を行います。事前に教科書の該当ページを読み授業に臨んでください (1時間)。また、授業後は配布された資料をノートにまとめるなど復習に努めてください (1時間)。					
教科書	「シンプル微生物学 改訂第6版」編集 小熊恵二・堀田博・若宮伸隆、南江堂									
参考文献										
備考	第1回目の講義資料は印刷したものを配布しますが、第2回目以降の講義資料は事前にLMSで配信を行いますので授業の前に印刷等の準備をしてください。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-1-HSS-01				
	●	●			●					
科目名	社会保障論				単位認定者	青山 美智子		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	15 %
							授業時間数		16 時間	受講態度
				授業形態	講義	授業回数			8 回	
授業の概要	<p>社会保障とは何か、社会保障制度を成り立たせている基本的な考え方を理解する。社会保障が誕生した歴史的背景、生存権を規定し国民の生活の保障を具体化した社会保障制度の内容を理解する。また、医療を取り巻く環境や少子高齢社会で人口減少が進む我が国で、どのような問題が生じているのか、現実社会の変化に対応すべく、どのような制度改革やサービス改革が行われようとしているのか、身近な問題と制度を結びつけ基本的な知識を身につける。</p>									
到達目標	<p>社会保障制度の体系と概要を理解し説明することができるようになる。 我が国の医療体制とその仕組みについて理解することができるようになる。 社会生活の中での社会保障の役割について説明できるようになる。</p>									
学修者への期待等	<p>人口減少社会での社会保障関連の統計データ、新聞、ニュース等は、日頃から関心をもつことが望ましい。 社会変化の現状に対応すべく、制度改革がどのように行われようとしているのか我が事として捉え考える。</p>									
回	授業計画				準備学修					
1	ガイダンス、カリキュラムの理解と履修上の注意点、保健医療制度の仕組みと現状 我が国の社会福祉を取り巻く環境①健康と公衆衛生				事後学修	第2章-1A 授業箇所 of データを読む (30分) 課題を完成させる (30分)				
2	保健医療制度の仕組みと現状 我が国の社会福祉を取り巻く環境②人口と少子高齢化、人口ピラミッド、平均寿命・出生率、				事前学修 事後学修	前回授業の課題を完成し提出する 第2章-1B 授業箇所 of データを読む (30分) 課題を完成させる (30分)				
3	保健医療制度の仕組みと現状 生活習慣と健康の状況①健康寿命、死因、生活習慣病、睡眠状況、飲酒、喫煙				事前学修 事後学修	前回授業の課題を完成し提出する 第2章-1B 授業箇所 of データを読む (30分) 課題を完成させる (30分)				
4	保健医療制度の仕組みと現状 生活習慣と健康の状況②国民皆保険制度と受療状況 入退院、憲法第25条、医療法、医療機関、医療従事者				事前学修 事後学修	前回授業の課題を完成し提出する 第2章-1B 授業箇所 of データを読む (30分) 課題を完成させる (30分)				
5	社会保障と社会福祉① 社会保障制度の理念、体系と概要、給付費				事前学修 事後学修	前回授業の課題を完成し提出する 第2章-2A 授業箇所 of データを読む (30分) 課題を完成させる (30分)				
6	社会保障と社会福祉② 社会保険、医療保険制度、介護保険制度、年金制度				事前学修 事後学修	前回授業の課題を完成し提出する 第2章-2B 授業箇所 of データを読む (30分) 課題を完成させる (30分)				
7	社会保障と社会福祉③ 社会福祉と公的扶助、児童、障害者福祉				事前学修 事後学修	前回授業の課題を完成し提出する 第2章-2C 授業箇所 of データを読む (30分) 課題を完成させる (30分)				
8	社会保障と社会福祉④ 高齢者福祉、地域包括ケアシステム、公的扶助				事前学修 事後学修	前回授業の課題を完成し提出する 第2章-2C 授業箇所 of データを読む (30分) 課題を完成させる (30分)				
教科書	「救急救命士標準テキスト 改訂第10版」救急救命士標準テキスト編集委員会、ヘルス出版									
参考文献	「新・わかる・みえる社会保障論」みらい (2,500+税) 「社会保障制度指さしガイド」日総研 いたう総研編									
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-2-IEM-01				
	●	●	●	●						
科目名	医学概論				単位 認定者	堀口 雅司		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価 の 方 法	授業内 課題等	20 %
						授業形態	講義		授業時間数	20 時間
				授業回数	10 回					
授業の概要	医学とは、人体の構造や機能、疾病について研究し、疾病を診断・治療・予防する方法を開発する学問であり、病気の予防や治療によって健康を維持、回復するために発展した様々な医療を包含している。「医学概論」では、「医学とは何か」に始まり、我が国の保険医療体制や各種制度の概要等について学ぶ。また、医学・医療の進歩とともに重視されるようになった「医の倫理」についても理解を深め、コメディカルスタッフとしての倫理観を養う。さらに、救急救命士の役割と関連する法令、救急救命士のストレスマネジメント等についても学修する。									
到達目標	救急医学の本質、科学的思考について説明できる。生命倫理、医の倫理、救急救命士の職業倫理と責務について説明できる。保健医療体制の仕組みと現状について説明できる。救急活動でのストレス反応とその対策について説明できる。									
学修者への期待等	事前にテキストやLMSへ掲載の資料等を熟読し、質問事項を用意して授業に臨んでください。救急医学を学ぶ上での基礎となる科目です。									
回	授業計画				準備学修					
1	人間と人間生活（身体、心、生活）				テキスト第Ⅰ編基礎分野 第1章「社会と医療」で予習・復習すること（概ね1時間）。					
2	科学的思考の基礎（科学的思考の必要性と項目）				テキスト第Ⅰ編基礎分野 第1章「社会と医療」で予習・復習すること（概ね1時間）。					
3	生命倫理と医の倫理（生命倫理に関する原則、ヒポクラテスの誓い等）				テキスト第Ⅰ編基礎分野 第1章「社会と医療」で予習・復習すること（概ね1時間）。					
4	生命倫理と医の倫理（傷病者の権利を守る立場から、救急救命士の職業倫理）				テキスト第Ⅰ編基礎分野 第1章「社会と医療」で予習・復習すること（概ね1時間）。					
5	保健医療制度の仕組みと現状（健康と公衆衛生、医療を取り巻く環境）				テキスト第Ⅰ編基礎分野 第2章「健康と社会保障」で予習・復習すること（概ね1時間）。					
6	保健医療制度の仕組みと現状（医療供給体制、さまざまな保健衛生）				テキスト第Ⅰ編基礎分野 第2章「健康と社会保障」で予習・復習すること（概ね1時間）。					
7	救急救命士に関連する法令（法令の基本、救急救命士法）				テキスト第Ⅲ編専門分野 第1章「救急医学概論/病院前医療概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。					
8	救急救命士に関連する法令（医師法、保健師助産師看護師法、消防法、その他の法令）				テキスト第Ⅲ編専門分野 第1章「救急医学概論/病院前医療概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。					
9	ストレスに対するマネジメント（救急活動でのストレス）				テキスト第Ⅲ編専門分野 第1章「救急医学概論/病院前医療概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。					
10	ストレスに対するマネジメント（ストレスへの対応）				テキスト第Ⅲ編専門分野 第1章「救急医学概論/病院前医療概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。					
教科書	「救急救命士標準テキスト 改訂第10版」救急救命士標準テキスト編集委員会、へるす出版									
参考文献	「医の倫理と法」（改訂第2版）森田泰彦、南江堂 「現代医学概論」（第2版）柳澤信夫									
備考	小テストは採点した後に模範解答と共に返却してフィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
「救急救命士として実務経験を活用して、医療人としてのあり方、倫理、法律について教授する。」 「救急隊長としての実務経験、公認心理師としての視点を活用して、救急救命士のストレスマネジメントについて教授する。」

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-2-IEM-02				
	●	●	●	●						
科目名	救急救命医療概論				単位認定者	平川 正隆		試験(筆記)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題等	10 %
					授業形態	講義	授業時間数		40 時間	受講態度
							授業回数		20 回	
授業の概要	<p>保険医療体制や各種制度についての知識を深め、救急搬送体制、救急医療機関の役割と要件、周産期・精神科・小児救急医療体制の役割、ドクターカー・ドクターヘリでの診療、メディカルコントロールの概念と具体的な内容等について学修する。また、消防機関における救急活動の流れや救急活動時のコミュニケーションについても学ぶ。救急救命士が担う救護体制について、実践的な知識を身につける。</p>									
到達目標	<p>1. 病院前救護体制とメディカルコントロールの概念及び内容について説明ができ、救急医療体制との関係性が説明できる。 2. テキスト内の各項目に記載されている分類表や図等を説明できる。</p>									
学修者への期待等	<p>テキストを熟読すること。単元の内容を整理して理解するようにしてください。</p>									
回	授業計画				準備学修					
1	救急業務の沿革				テキスト内の表にも注目するようにして授業に臨む(概ね30分)					
2	応急救護体制・救急搬送体制・病院前診療体制				テキストの各項目を予習して臨む(概ね1時間)					
3	救急受け入れ体制Ⅰ(医療機関について)				初期・二次・三次医療機関の特徴について予習して臨む(概ね1時間)					
4	救急受け入れ体制Ⅱ(救急受け入れ体制の現状と課題)				総務省統計を一読して授業に臨む(事前に資料は提示いたします)					
5	メディカルコントロール				メディカルコントロールの章を予習して臨む(概ね1時間)					
6	メディカルコントロールとプロトコル				メディカルコントロールの章を予習して臨む(概ね1時間)					
7	消防機関における救急搬送体制Ⅰ(通報から医療機関搬送まで)				通報から医療機関搬送までの流れを予習して臨む(概ね1時間)					
8	消防機関における救急搬送体制Ⅱ(搬送記録と関連機関)				活動記録と関連機関についてを予習して臨む(概ね1時間)					
9	救急業務の現状と課題				医療体制から搬送体制までの整理・復習して授業に臨む(概ね1時間)					
10	救急活動時のコミュニケーションⅠ(接遇とコミュニケーション)				第1章4救急活動時のコミュニケーションを予習して臨む(概ね1時間)					

回	授業計画	準備学修
11	救急活動時のコミュニケーションⅡ（インフォームドコンセントとDNAR）	事前に事例提示する予定です。各自発表できるように意見をまとめて臨む（概ね1時間）
12	救急救命士に関連する法令Ⅰ（法令の基本・救急救命士法）	法令の基本と救急救命士法を予習して臨む（概ね1時間）
13	救急救命士に関連する法令Ⅱ（救急救命士法）	テキスト262～263ページの表を予習して臨む（概ね30分）
14	救急救命士に関連する法令Ⅲ（医療関係領域で関連する法律）	消防法他の関連法律を予習して臨む（概ね1時間）
15	救急救命士に関連する法令Ⅳ（行政関係領域で関連する法律）	テキスト内の関連法律を予習する他、関係する機関も調べ予習して臨む（概ね1時間）
16	救急救命士の生涯教育	テキスト271～275ページを予習して臨む（概ね30分）
17	安全管理と事故対応	テキスト276～281ページを予習して臨む（概ね30分）
18	感染対策・感染症対策の実際	テキスト282～293ページを予習して臨む（概ね1時間）
19	ストレスに対するマネジメント	テキスト294～297ページを予習して臨む（概ね30分）
20	救急救命医療概論まとめ（反転授業：救急医療体制）	各章、各項目の要点を再確認し、各自が居住又は生活している地域の救急医療体制を事前に調べ、問題点を抽出して臨む（概ね2時間）
教科書	「救急救命士標準テキスト 改訂第10版」救急救命士標準テキスト編集委員会、へるす出版 「標準 多数傷病者対応MCLSテキスト」監修・一般社団法人日本災害医学会 編集・大友康裕、ぱーそん書房	
参考文献		
備考	進捗状況や理解度に応じて順序等を変更する可能性があります。授業においては適宜フィードバック（質問やミニテスト）を行います。	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

救急救命士及び地域メディカルコントロール委員としての実務経験に基づいた必須事項を中心に授業を展開する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-2-IEM-03				
	●	●		●	●					
科目名	救急救命処置概論				単位 認定者	堀口 雅司		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価 の方法	授業内 課題等	20 %
							授業時間数		40 時間	受講態度
				授業形態	講義	授業回数			20 回	
授業の概要	救急救命の現場では、一刻を争う傷病者に対応することもあれば、落ち着いた観察や搬送が可能なこともある。あらゆる傷病者に対する、観察、緊急度・重症度の判断、救急処置、使用できる薬剤の効果とその副作用、救急蘇生法、搬送等について学修する。救急救命の現場で冷静に適切な判断を下し、理論的な観察・評価に裏付けられた処置を行い、傷病者の命を救うための、実践的な知識や観察力・推測力を修得する。									
到達目標	バイタルサインの概念を説明し、具体的な項目を列挙できる。観察の方法について列挙し、それぞれについて説明できる。全身状態の観察すべき項目を列挙し、それぞれの主な所見を述べるができる。局所の観察すべき項目を列挙し、それぞれの主な所見を述べるができる。神経所見の観察項目を列挙し、それぞれの主な所見を述べるができる。緊急度と重症度の概念、判断、目的、方法について説明できる。救急活動で使用する資器材を分類して列挙し、適応、種類、原理、構造、方法、評価、注意点について説明できる。救急救命士が行う処置の種類について列挙し、それぞれの適応、禁忌、方法と手順、評価、注意点、合併症などについて説明できる。救急蘇生法の概念と小児、成人、医療機関での救命処置について説明できる。在宅療法の概念、種類、発生し得る問題点、および観察時の注意点と対処法について説明できる。傷病者搬送の原則と注意点、搬送方法の適応と方法について説明できる。									
学修者への 期待等	事前にテキストやLMSへ掲載の資料等を熟読し、質問事項を用意して授業に臨んでください。									
回	授業計画				準備学修					
1	傷病者の観察（観察の目的と意義、バイタルサイン、観察の方法）				テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。					
2	傷病者の観察（全身状態の観察、外見、気道、呼吸、循環、意識）				テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。					
3	意識状態に関する観察（JCS、GCS） 局所の観察（皮膚、頭部、顔面、頸部）				テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。					
4	局所の観察（胸部、背部、腹部、鼠径部、会陰部、骨盤、手指、足趾、爪、各種病態の観察アルゴリズム）				テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。					
5	神経所見の観察（運動機能、感覚、髄膜刺激症候、失語症と構音障害、脳卒中スケール、神経学的異常の観察方法）緊急度・重症度判断（概念、目的、判断の基準）				テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。					
6	資器材による観察（パルスオキシメータ、カプノメータ、聴診器、血圧計）				テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。					
7	資器材による観察（心電図モニター、体温計、血糖測定器）				テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。					
8	救急救命士が行う処置（処置の目的と意義、気道確保、気道異物除去、口腔内の吸引、正門上気道デバイスを用いた気道確保）				テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。					
9	救急救命士が行う処置（気管挿管、気管吸引）				テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。					
10	救急救命士が行う処置（酸素投与、人工呼吸、胸骨圧迫）				テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。					

回	授業計画	準備学修
11	救急救命士が行う処置（自動式心マッサージ器、電気ショック）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。
12	救急救命士が行う処置（静脈路確保と輸液）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。
13	救急救命士が行う処置（アドレナリンの投与、ブドウ糖の投与）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね3時間）。
14	救急救命士が行う処置（体位管理、体温管理）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。
15	救急救命士が行う処置（止血、創傷処置、固定）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。
16	救急救命士が行う処置（固定の方法と手順、産婦人科領域の処置）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。
17	救急蘇生法（概要、歴史、成人に対する救急蘇生法、小児に対する救急蘇生法、医療機関での治療）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。
18	在宅療法継続中の傷病者の処置（在宅療法の概要、在宅療法の種類と対応方法）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。
19	傷病者搬送（搬送の目的と意義、手順、注意点、搬送経路の確認と指示、ボディメカニクス、体位変換、徒手搬送、器具を用いた搬送）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。
20	傷病者搬送（搬送手順、ヘリコプターへの搬入と搬出、事故車両からの救出方法）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。
教科書	「救急救命士標準テキスト 改訂第10版」救急救命士標準テキスト編集委員会、へるす出版 「救急処置スキルブック」〈上下巻〉（新訂第2版）田中秀治（総監修）、晴れ書房 「救急技術マニュアル」（6訂版）救急業務研究会、東京法令出版	
参考文献		
備考	小テストは採点した後に模範解答と共に返却してフィードバックを行う。	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

救急救命士として実務経験を活用して、救急救命の現場で冷静に適切な判断を下し、理論的な観察・評価に裏付けられた処置を行い、傷病者の命を救うための、実践的な知識や観察力・推測力の重要性について教授する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-2-ESP-01				
	●	●		●						
科目名	救急病態生理学				単位認定者	横山 亜矢		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題等	20 %
					授業形態		講義		授業時間数	40 時間
						授業回数	20 回			
授業の概要	<p>人体の器官等が、疾患（病気）によって異常や不全を起こすことで生じる生体機能の病的な変化を研究する学問を病態生理学といい、そのうちの救急疾患に関連の深い病態について扱うものを救急病態生理学という。呼吸不全、心不全、ショック、重症脳障害、心肺停止等について、正常な生理学、病態の発症機序、症候、症状、所見、予後、観察、評価、鑑別処置及び搬送法等を学修する。千差万別である救急救命の現場において、正確に疾患を把握するための知識を身につける。</p>									
到達目標	救急疾患に関係の深い病態に対する知識を得、生体の機能的変化を説明できるようになる。									
学修者への期待等	テキストで予習をすること。項目ごとに小テスト、レポートを設けているため復習を行うこと。現場での緊急度重症度が比較的高い病態であるため理解を深めてほしい。									
回	授業計画				準備学修					
1	心肺停止① (心肺停止の概念、ウツタイン様式)									
2	心肺停止② (心肺停止に至る病態、原因疾患)									
3	心肺停止③ (心肺蘇生中の循環、心拍再開後の病態)									
4	心肺停止④ (復習・小テスト)				テキスト第Ⅲ編専門分野 第3章救急病態生理学で復習すること(概ね1時間)。【事後】レポート提出(概ね1時間) 詳細は授業で説明。					
5	心不全① (心不全の定義、原因疾患)									
6	心不全② (心不全における病態生理)									
7	心不全③ (心不全の症候、種類)									
8	心不全④ (復習・小テスト)				テキスト第Ⅲ編専門分野 第3章救急病態生理学で復習すること(概ね1時間)。【事後】レポート提出(概ね1時間) 詳細は授業で説明。					
9	ショック① (ショックの定義、発生機序)									
10	ショック② (各種ショックについて)									

回	授業計画	準備学修
11	ショック③ (ショックの傷病者に対する観察、処置)	
12	ショック④ (復習・小テスト)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第3章救急病態生理学で復習すること(概ね1時間)。【事後】レポート提出(概ね1時間)詳細は授業で説明。
13	重症脳障害① (意識障害、一次性脳病変と二次性脳病変)	
14	重症脳障害② (頭蓋内圧亢進)	
15	重症脳障害③ (脳ヘルニア)	
16	重症脳障害④ (復習・小テスト)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第3章救急病態生理学で復習すること(概ね1時間)。【事後】レポート提出(概ね1時間)詳細は授業で説明。
17	呼吸不全① (呼吸不全の定義について)	
18	呼吸不全② (低酸素血症)	
19	呼吸不全③ (高二酸化炭素血症、換気障害の種類)	
20	呼吸不全④ (復習・小テスト)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第3章救急病態生理学で復習すること(概ね1時間)。【事後】レポート提出(概ね1時間)詳細は授業で説明。
教科書	「救急救命士標準テキスト 改訂第10版」救急救命士標準テキスト編集委員会、へるす出版	
参考文献	「新版 からだの地図帳」佐藤達夫、講談社	
備考	授業はすべて対面授業とするが遠隔(オンライン)に切り替える可能性もある。小テストについては採点后誤った回答に関して、次回までのレポートとする。	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

救急救命士として実務経験を活用し、傷病者観察からの判断・処置について解剖生理とともに解説する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-2-ESP-02				
	●	●		●						
科目名	救急症候学 I				単位認定者	平川 正隆		試験(筆記)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題等	10 %
						授業時間数	40 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	20 回			
授業の概要	<p>傷病者本人が自覚する心身の異常を症状または自覚症状といい、他者によって観察される客観的な所見を徴候または他覚的所見という。症状と徴候をあわせたものが症候であり、救急症候学は救急医療に関係の深い症候を扱う臨床医学のひとつである。「救急症候学 I」では、主に意識障害、頭痛、痙攣、運動麻痺、めまい等について、それぞれの発症機序、症候、症状、所見、予後、観察、評価、鑑別処置及び搬送法等を学修する。救急救命の現場において遭遇することの多い症候に関する知識を身につける。</p>									
到達目標	<p>救急医療に必要な症候を理解し、個別疾患へと結びつける観察ができ、重症度・緊急度評価ができる。</p>									
学修者への期待等	<p>テキストを熟読すること。熟読して医療用語等を予習して、授業で深めた内容の理解を予習において知識を自分のものとしてください。</p>									
回	授業計画				準備学修					
1	意識の概要・意識をつかさどるもの				テキスト90～91ページを予習して臨む(概ね30分)					
2	意識障害の原因・随伴症状				テキスト488～491ページを予習して臨む(概ね1時間)					
3	意識障害の判断を要する病態、緊急度・重症度判断				前2回の授業を復習して臨む(概ね1時間)					
4	意識障害における現場活動、医療機関選定、病院搬送				前3回の授業を復習して臨む(概ね30分)					
5	頭痛				テキスト80～84・89ページを予習して臨む(概ね1時間)					
6	頭痛の発生機序、原因				テキスト492～493ページを予習して臨む(概ね30分)					
7	頭痛の性状、随伴症状				テキスト493～495ページを予習して臨む(概ね30分)					
8	頭痛における緊急度・重症度の判断、現場活動				テキスト495～496ページを予習して臨む(概ね30分)					
9	痙攣とてんかん				テキスト555ページと497ページを予習して臨む(概ね1時間)					
10	痙攣の定義・概念、病態				テキスト497～498ページを予習して臨む(概ね30分)					

回	授業計画	準備学修
11	痙攣の分類、原因疾患	テキスト498～499ページを予習して臨む (概ね1時間)
12	痙攣の随伴症状、広義の痙攣、判断を要する病態	テキスト500ページを予習して臨む (概ね30分)
13	痙攣における緊急度・重症度判断と現場活動	テキスト501ページを予習して臨む (概ね30分)
14	運動麻痺運	解剖整理神経伝達経路を復習して臨む (概ね1時間)
15	動麻痺の定義・概念、発生機序、分類	テキスト503～504ページを予習して臨む (概ね30分)
16	運動麻痺の原因疾患、随伴症状、判断を要する病態	テキスト504～505ページを予習して臨む (概ね30分)
17	運動麻痺における緊急度・重症度判断と現場活動 めまいの定義・概念、発症機序	テキスト505～506ページを予習して臨む (概ね30分)
18	めまいの分類、随伴症状	テキスト507～509ページを予習して臨む (概ね1時間)
19	めまいの緊急度・重症度判断と現場活動	テキスト510ページを予習して臨む (概ね30分)
20	救急症候学Iまとめ	各章、各項目の要点を再確認して臨む (概ね2時間)
教科書	「救急救命士標準テキスト 改訂第10版」救急救命士標準テキスト編集委員会、へるす出版	
参考文献		
備考	各症候ごとにチェックテストを実施します。	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

救急救命士としての実務経験を活用して、正確な観察に基づく緊急度重症度判断が出来るよう基本的な部分から授業を展開する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-2-ESP-03				
	●	●		●						
科目名	救急症候学Ⅱ				単位認定者	鈴木 宏俊		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内 課題等	20 %
					授業形態		講義		授業時間数	40 時間
				授業回数		20 回				
授業の概要	救急救命士が傷病者に接触したときに、最初を得る情報のひとつが症候であり、その理解は救急救命の現場を組み立てるうえで非常に重要である。「救急症候学Ⅱ」では、主に呼吸困難、咯血、一過性意識消失と失神、胸痛、動悸等について、それぞれの発症機序、症候、症状、所見、予後、観察、評価、鑑別処置及び搬送法等を学修する。救急救命の現場において遭遇することの多い症候に関する知識を身につける。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸困難の症候・原因全般、緊急度・重症度、観察、処置等を説明できる。 2. 咯血の症候・原因全般、緊急度・重症度、現場活動等を説明できる。 3. 一過性意識消失と失神の症候・原因全般、現場活動等を説明できる。 4. 胸痛の症候・原因全般、緊急度・重症度、観察、処置等を説明できる。 5. 動悸の症候・原因全般、緊急度・重症度、観察、処置等を説明できる。 									
学修者への期待等	今日置かれている救急活動の重要性を認識し、どのような症例にも冷静に迅速的確な緊急度・重症度の判断と現場対応ができるよう知識、技術をしっかりと習得してほしい。									
回	授業計画				準備学修					
1	呼吸困難① 定義・概念、分類				【事前・事後】標準テキストの呼吸困難を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)					
2	呼吸困難② 原因疾患				【事前・事後】標準テキストの呼吸困難を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)					
3	呼吸困難③ 随伴症候				【事前・事後】標準テキストの呼吸困難を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)					
4	呼吸困難④ 緊急度・重症度の判断、現場活動効果確認				【事前・事後】標準テキストの呼吸困難を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)					
5	咯血① 定義・概念、分類、咯血による影響				【事前・事後】標準テキストの咯血を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)					
6	咯血② 原因疾患				【事前・事後】標準テキストの咯血を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)					
7	咯血③ 判別を要する病態				【事前・事後】標準テキストの咯血を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)					
8	咯血④ 緊急度・重症度の判断、現場活動効果確認				【事前・事後】標準テキストの咯血を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)					
9	一過性の意識消失と失神① 定義・概念、原因				【事前・事後】標準テキストの一過性の意識消失と失神を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)					
10	一過性の意識消失と失神② 原因				【事前・事後】標準テキストの一過性の意識消失と失神を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)					

回	授業計画	準備学修
11	一過性の意識消失と失神③ 緊急度・重症度の判断	【事前・事後】標準テキストの一過性の意識消失と失神を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)
12	一過性の意識消失と失神④ 現場活動 効果確認	【事前・事後】標準テキストの一過性の意識消失と失神を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)
13	胸痛① 定義・概念、発症機序	【事前・事後】標準テキストの胸痛を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)
14	胸痛② 原因疾患	【事前・事後】標準テキストの胸痛を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)
15	胸痛③ 緊急度・重症度の判断	【事前・事後】標準テキストの胸痛を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)
16	胸痛④ 現場活動 効果確認	【事前・事後】標準テキストの胸痛を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)
17	動悸① 定義・概念、発症機序	【事前・事後】標準テキストの動悸を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)
18	動悸② 原因疾患	【事前・事後】標準テキストの動悸を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)
19	動悸③ 随伴症候	【事前・事後】標準テキストの動悸を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)
20	動悸④ 緊急度・重症度の判断、現場活動 効果確認	【事前・事後】標準テキストの動悸を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)
教科書	「救急救命士標準テキスト 改訂第10版」救急救命士標準テキスト編集委員会編集、へるす出版社	
参考文献	「新版からだの地図帳」佐藤達夫監修、講談社	
備考	*授業内で小テストを実施する。 *小テスト、効果確認については、次回の授業でフィードバックする。	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

救急救命士として、多くの救急現場に出場し、様々な症例を経験してきた。また、救急救命士としての経験を活かして通信指令室(119番受付)では、市民への口頭指導を数多く行い、救命率の向上に務めた。その実務経験を活かし、救急活動について具体的にわかりやすく授業を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-2-ESP-04				
	●	●		●						
科目名	救急症候学Ⅲ				単位認定者	平川 正隆		試験(筆記)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内 課題等	10 %
					授業形態	講義	授業時間数		40 時間	受講態度
						授業回数	20 回			
授業の概要	救命救急の現場では、疾患単位の知識と症候学の知識の両者がそろって初めて傷病者に対する理論的で確実な対応が可能となる。特に、腹痛をきたす疾患はきわめて多く、腹痛症状は救急搬送において最も頻度の高い症状のひとつであり、各所見を観察し、適切な処置を施す必要がある。「救急症候学Ⅲ」では、主に腹痛、吐血・下血、腰痛・背部痛、体温上昇等について、それぞれの発症機序、症候、症状、所見、予後、観察、評価、鑑別処置及び搬送法等を学修する。救急救命の現場において遭遇することの多い症候に関する知識を身につける。									
到達目標	症候の理解を深め、バイタルサインや観察と結びつけられ一つの症候にとらわれることなく、病態の緊急度・重症度を説明できる。									
学修者への期待等	テキストを熟読すること。単元の内容を整理して理解するようにしてください。									
回	授業計画				準備学修					
1	臓器の痛み				テキスト77～91ページの神経系を予習して臨んでください(概ね2時間)					
2	腹痛の発症機序、原因疾患、部位				テキスト529～530ページを予習して臨む(概ね1時間)					
3	腹痛の既往症、随伴症状				テキスト530～532ページを予習して臨む(概ね1時間)					
4	腹痛の緊急度重症度の判断、現場活動				テキスト532～533ページを予習して臨む(概ね30分)					
5	消化器官				テキスト119～128ページの消化系を予習して臨んでください(概ね2時間)					
6	吐血・下血の定義・概念、原因疾患				テキスト534ページを予習して臨む(概ね30分)					
7	吐血・下血の病態				テキスト535ページを予習して臨む(概ね30分)					
8	吐血・下血の判断が必要な病態、緊急度・重症度の判断、現場活動				テキスト536ページを予習して臨む(概ね30分)					
9	腰痛・背部痛の定義・概念、原因疾患				テキスト537ページを予習して臨む(概ね30分)					
10	腰痛・背部痛の緊急度・重症度判断、現場活動				テキスト538～539ページを予習して臨む(概ね30分)					

回	授業計画	準備学修
11	体温について	テキスト162、645、821ページ体温についての基礎を予習して臨む（概ね1時間）
12	発熱の機序、免疫機能の働き	テキスト149～150ページを予習して臨む（概ね1時間）
13	体温上昇の定義・概念、発症機序	テキスト540～541ページを予習して臨む（概ね30分）
14	体温上昇の病態	テキスト541ページを予習して臨む（概ね30分）
15	体温上昇、発熱の分類と種類	テキスト541～542ページを予習して臨む（概ね30分）
16	体温上昇の原因疾患	テキスト542～543ページを予習して臨む（概ね30分）
17	体温上昇の緊急度・重症度、現場活動	テキスト543～544ページを予習して臨む（概ね30分）
18	体温上昇のまとめ	体温上昇の項目を再復習し臨む（概ね1時間）
19	救急症候学Ⅲのまとめ	腹痛、吐血・下血、腰部・背部痛の項目を再復習して臨む（概ね1時間）
20	救急症候例 実務研究	数例の症候例を事前提示する予定です、どこに着目しどのように観察するか各人が準備して臨む（概ね1時間）
教科書	「救急救命士標準テキスト 改訂第10版」救急救命士標準テキスト編集委員会、へるす出版	
参考文献		
備考	各症候ごとにチェックテストを実施します。	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

救急救命士として実務経験を活用し、正確な観察に基づく緊急度重症度判断が出来るよう基本的な部分から授業を展開する。

学修成果	1	2	3	4	5
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力
	●	●	●	●	

科目ナンバリング
EM-2-DEM-01

科目名	疾病救急医学 I				単位 認定者	堀口 雅司		評 価 の 方 法	試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位		授業内 課題等	20 %
						授業時間数	40 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	20 回			
授業の概要	救急救命の現場で遭遇することの多い疾患について学修する。特に、脳血管障害は、循環系疾患とともに緊急度・重症度が高い疾患のひとつであり、救護の現場から医療機関の治療まで一連の流れが重要となる。また、わが国における全死亡数に占める肺炎の割合は高く、肺炎リスクの高い高齢者の増加、すなわち高齢化により、呼吸器系疾患に関する重要性も高い。さらに、循環系疾患は、状態が急激に変化し、致死的となり得ることや、早期に専門的治療を要することが特徴として挙げられ、救急救命の現場や搬送中に即座の判断が必要になることもあり、救急救命士に求められるものは大きい。「疾病救急医学 I」では、神経系疾患、呼吸器疾患、循環系疾患について、それぞれの発症機序、症候、症状、所見、予後、観察、評価、鑑別処置及び搬送法等を学修する。救急救命士として様々な疾患を持つ患者に適切に対応できるようにするための、基本的な知識を修得する。									
到達目標	神経系の救急疾患で主要な病名、症候をあげ、それぞれ説明できる。神経系疾患の傷病者に共通する現場活動について説明できる。脳血管障害と脳卒中の概念、疫学、種類、病因、病態、症候、現場活動について説明できる。呼吸器疾患の主要な病名、症候をあげ、それぞれ説明できる。呼吸器疾患における観察、緊急度・重症度の判断、主な原因疾患、症候について説明できる。主な呼吸器疾患の概念、疫学、種類、病因、病態、症候、現場活動について説明できる。循環器疾患の主要な病名、症候をあげ、それぞれ説明できる。心臓突然死の概念、疫学、原因疾患について説明できる。主な循環器疾患の概念、疫学、種類、病因、病態、症候、現場活動について説明できる。主な不整脈を列挙し、それぞれの病態について説明できる。主な不整脈の典型的な心電図を判読できる。									
学修者への期待等	事前にテキストやLMSへ掲載の資料等を熟読し、質問事項を用意して授業に臨んでください。									
回	授業計画					準備学修				
1	神経系疾患 総論(疫学と救急医療における意義、神経系疾患の主要症候、基本的対応)					テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章「疾病救急医学」で予習・復習すること(概ね1時間)。				
2	脳血管障害(概要、脳梗塞、一過性脳虚血発作、くも膜下出血、脳出血)					テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章「疾病救急医学」で予習・復習すること(概ね1時間)。				
3	中枢神経系の感染症(髄膜炎、脳炎、脳症)					テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章「疾病救急医学」で予習・復習すること(概ね1時間)。				
4	末梢神経疾患(ギランバレー症候群、糖尿病性ニューロパチー)					テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章「疾病救急医学」で予習・復習すること(概ね1時間)。				
5	その他の中枢神経疾患(てんかん、脳腫瘍、変性疾患)					テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章「疾病救急医学」で予習・復習すること(概ね1時間)。				
6	呼吸器疾患 総論(疫学と救急医療における意義、呼吸器疾患の主要症候、基本的対応)					テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章「疾病救急医学」で予習・復習すること(概ね1時間)。				
7	上気道の疾患(急性喉頭蓋炎、扁桃周囲膿瘍)					テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章「疾病救急医学」で予習・復習すること(概ね1時間)。				
8	下気道と肺胞の疾患(気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、無気肺、気管支拡張症)					テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章「疾病救急医学」で予習・復習すること(概ね1時間)。				
9	感染症(肺炎、肺結核、急性上気道炎)胸膜疾患(気胸、胸膜炎)					テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章「疾病救急医学」で予習・復習すること(概ね1時間)。				
10	その他の呼吸器疾患(過換気症候群、肺癌、急性呼吸促拍症候群、間質性肺炎)					テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章「疾病救急医学」で予習・復習すること(概ね1時間)。				

回	授業計画	準備学修
11	循環系疾患 総論（疫学と救急医療における意義、循環系疾患の主要症候、基本的対応）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章「疾病救急医学」で予習・復習すること（概ね1時間）。
12	動脈硬化（概念、病態）虚血性心疾患（概念、急性冠症候群、急性心筋梗塞）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章「疾病救急医学」で予習・復習すること（概ね1時間）。
13	虚血性心疾患（不安定狭心症、安定狭心症）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章「疾病救急医学」で予習・復習すること（概ね1時間）。
14	心筋疾患（心筋症、心筋炎）心膜疾患（心タンポナーデ、急性心膜炎）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章「疾病救急医学」で予習・復習すること（概ね1時間）。
15	不整脈（不整脈とは、心室期外収縮、心室細動、心室頻拍）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章「疾病救急医学」で予習・復習すること（概ね1時間）。
16	不整脈（心房細動、洞頻脈、房室ブロック、QT延長症候群、WPW症候群）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章「疾病救急医学」で予習・復習すること（概ね1時間）。
17	心電図の観察（心電図の基礎、頻脈性不整脈、徐脈性不整脈）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章「疾病救急医学」で予習・復習すること（概ね1時間）。
18	心電図の観察（期外収縮、心筋の虚血性変化、その他の心電図異常）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章「疾病救急医学」で予習・復習すること（概ね1時間）。
19	その他の心疾患（心臓弁膜症、感染性心内膜炎、先天性心疾患） 血管疾患（急性大動脈解離、大動脈瘤）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章「疾病救急医学」で予習・復習すること（概ね1時間）。
20	血管疾患（深部静脈血栓症、肺血栓塞栓症、急性四肢動脈閉塞症、閉塞性動脈硬化症） 高血圧（高血圧症、高血圧緊急症）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章「疾病救急医学」で予習・復習すること（概ね1時間）。
教科書	「救急救命士標準テキスト 改訂第10版」救急救命士標準テキスト編集委員会、へるす出版 「新版からだの地図帳」佐藤達夫、講談社	
参考文献		
備考	小テストは採点した後に模範解答と共に返却してフィードバックを行う。	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
救急救命士として実務経験を活用して、救急医療では特に重要な神経系疾患、呼吸系疾患、循環系疾患について、それぞれの発症機序、症候、症状、所見、予後、観察、評価、鑑別処置及び搬送法等を教授する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-2-DEM-02				
	●	●	●	●						
科目名	疾病救急医学Ⅱ				単位認定者	横山 亜矢		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題等	20 %
					授業形態	講義	授業時間数		40 時間	受講態度
				授業回数		20 回				
授業の概要	救急救命の現場で遭遇することの多い疾患について学修する。消化系疾患は頻度が高く、軽症例から緊急の処置が必要な重症例まで幅が大きい。泌尿系疾患では、腎臓機能の低下、尿管・尿道の流路障害、尿路感染症、生殖系疾患では、女性は内性器感染症や腫瘍に起因する病態、男性は精巣上体炎、前立腺炎等の感染症、精索捻転症等の頻度が高い。また、内分泌・代謝・栄養系疾患の中では特に糖尿病とその合併症による救急要請が多い。「疾病救急医学Ⅱ」では、消化系疾患、泌尿・生殖系疾患、内分泌・代謝・栄養系疾患について、それぞれの発症機序、症候、症状、所見、予後、観察、評価、鑑別処置及び搬送法等を学修する。救急救命士として様々な疾患を持つ患者に適切に対応できるようにするための、基本的な知識を修得する。									
到達目標	消化系疾患、泌尿・生殖系疾患、内分泌・代謝・栄養系疾患についての病態について理解し説明することができる。									
学修者への期待等	テキストを熟読すること。授業内で小テストを実施する。消化系、泌尿系、生殖系、内分泌系の構造と機能についても予習・復習すること。授業とシミュレーションと合わせて理解を深めてほしい。									
回	授業計画				準備学修					
1	消化系疾患① (総論、歯・口腔疾患)				テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 4消化系疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。					
2	消化系疾患② (食道疾患)				テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 4消化系疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。					
3	消化系疾患③ (胃・十二指腸疾患)				テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 4消化系疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。					
4	消化系疾患④ (構成する器官)				テキスト第Ⅱ編専門基礎分野 第1章人体の構造と機能 7消化系、第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 4消化系疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。					
5	消化系疾患⑤ (腸疾患)				テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 4消化系疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。					
6	消化系疾患⑥ (急性腹膜炎)				テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 4消化系疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。					
7	消化系疾患⑦ (肝臓・胆道・膵臓の疾患)				テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 4消化系疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。					
8	泌尿・生殖系疾患① (総論)				テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 5泌尿・生殖系疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。					
9	泌尿・生殖系疾患② (急性腎不全と急性腎障害)				テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 5泌尿・生殖系疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。					
10	泌尿・生殖系疾患③ (構成する器官)				テキスト第Ⅱ編専門基礎分野 第1章人体の構造と機能 8泌尿系、9生殖系、第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 5泌尿・生殖系疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。					

回	授業計画	準備学修
11	泌尿・生殖系疾患④ (慢性腎不全と慢性腎障害)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 5泌尿・生殖系疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。
12	泌尿・生殖系疾患⑤ (尿路の疾患)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 5泌尿・生殖系疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。
13	泌尿・生殖系疾患⑥ (女性・男性生殖器の疾患)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 5泌尿・生殖系疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。
14	代謝・内分泌・栄養系疾患① (総論)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 6代謝・内分泌・栄養系疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。
15	代謝・内分泌・栄養系疾患② (糖尿病)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 6代謝・内分泌・栄養系疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。
16	代謝・内分泌・栄養系疾患③ (糖尿病とその合併症)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 6代謝・内分泌・栄養系疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。
17	代謝・内分泌・栄養系疾患④ (その他の代謝異常)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 6代謝・内分泌・栄養系疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。
18	代謝・内分泌・栄養系疾患⑤ (甲状腺機能亢進症・低下症)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 6代謝・内分泌・栄養系疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。
19	代謝・内分泌・栄養系疾患⑥ (副腎機能異常)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 6代謝・内分泌・栄養系疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。
20	代謝・内分泌・栄養系疾患⑦ (栄養疾患)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 6代謝・内分泌・栄養系疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。
教科書	「救急救命士標準テキスト 改訂第10版」救急救命士標準テキスト編集委員会、へるす出版	
参考文献	「新版 からだの地図帳」佐藤達夫、講談社	
備考	授業はすべて対面授業とするが遠隔(オンライン)に切り替える可能性もある。小テストについては授業内で解説を実施する。	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

救急救命士として実務経験を活用し、病態について分かりやすく説明する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-2-DEM-03				
	●	●	●	●						
科目名	疾病救急医学Ⅲ				単位認定者	鈴木 宏俊		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題等	20 %
					授業形態	講義	授業時間数		40 時間	受講態度
				授業回数		20 回				
授業の概要	<p>救急救命の現場で遭遇することの多い疾患について学修する。血液・免疫系疾患は、アナフィラキシーを除けば傷病者の救急搬送時に問題となる機会は少ない。ただし、貧血や出血傾向等は重症傷病者に付随する病態であることが多く、観察や処置を的確に実施するためには、その基本的な理解が必須である。筋・骨格系疾患は、強い疼痛や歩行困難のために救急搬送される頻度が比較的高いが、緊急度は概ね低い。ただし、一般的な主訴である腰痛をきたす疾患には大動脈疾患や腎疾患が、肩の痛みをきたす疾患には心筋梗塞等が含まれており、頻度は低い緊急度・重症度は高い疾患であるケースもあるため、慎重な判断が求められる。皮膚系疾患は、皮膚病変が内蔵疾患と密接に関連している場合が多く、皮膚所見のみならず、全身疾患の部分症状として認識する必要がある。「疾病救急医学Ⅲ」では、血液・免疫系疾患、筋・骨格系疾患、皮膚系疾患、感覚系疾患について、それぞれの発症機序、症候、症状、所見、予後、観察、評価、鑑別処置及び搬送法等を学修する。救急救命士として様々な疾患を持つ患者に適切に対応できるようにするための、基本的な知識を修得する。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 血液・免疫系の疾患、発症機序、症候、観察、評価、処置等を説明できる。 2. 筋・骨格系の疾患、発症機序、症候、観察、処置等を説明できる。 3. 皮膚系の疾患、発症機序、症候、観察、処置等を説明できる。 4. 眼・耳・鼻の疾患、発症機序、症候、観察、処置等を説明できる。 									
学修者への期待等	<p>今日置かれている救急活動の重要性を認識し、どのような症例にも冷静に迅速的確な緊急度・重症度の判断と現場対応ができるよう知識、技術をしっかりと習得してほしい。</p>									
回	授業計画				準備学修					
1	血液・免疫系疾患① 総論				【事前・事後】標準テキストの血液・免疫系疾患を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)					
2	血液・免疫系疾患② 血液系疾患				【事前・事後】標準テキストの血液・免疫系疾患を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)					
3	血液・免疫系疾患③ 免疫系疾患				【事前・事後】標準テキストの血液・免疫系疾患を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)					
4	血液・免疫系疾患④ アナフィラキシー				【事前・事後】標準テキストの血液・免疫系疾患を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)					
5	血液・免疫系疾患⑤ アナフィラキシー 効果確認				【事前・事後】標準テキストの血液・免疫系疾患を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)					
6	筋・骨格系疾患① 総論				【事前・事後】標準テキストの筋・骨格系疾患を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)					
7	筋・骨格系疾患② 脊椎疾患				【事前・事後】標準テキストの筋・骨格系疾患を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)					
8	筋・骨格系疾患③ 脊椎疾患、関節疾患				【事前・事後】標準テキストの筋・骨格系疾患を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)					
9	筋・骨格系疾患④ 関節疾患				【事前・事後】標準テキストの筋・骨格系疾患を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)					
10	筋・骨格系疾患⑤ 筋疾患 効果確認				【事前・事後】標準テキストの筋・骨格系疾患を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)					

回	授業計画	準備学修
11	皮膚系疾患① 総論（救急医療における意義、皮膚系疾患の主要症候：皮疹）	【事前・事後】標準テキストの皮膚系疾患を読み、予習・復習をする。（概ね1時間）
12	皮膚系疾患② 総論（基本的対応）	【事前・事後】標準テキストの皮膚系疾患を読み、予習・復習をする。（概ね1時間）
13	皮膚系疾患③ 皮膚・軟部組織の感染症	【事前・事後】標準テキストの皮膚系疾患を読み、予習・復習をする。（概ね1時間）
14	皮膚系疾患④ アレルギー性疾患	【事前・事後】標準テキストの皮膚系疾患を読み、予習・復習をする。（概ね1時間）
15	皮膚系疾患⑤ その他の皮膚疾患 効果確認	【事前・事後】標準テキストの皮膚系疾患を読み、予習・復習をする。（概ね1時間）
16	眼・耳・鼻の疾患① 総論（眼に関する主要症候）	【事前・事後】標準テキストの眼・耳・鼻の疾患を読み、予習・復習をする。（概ね1時間）
17	眼・耳・鼻の疾患② 総論（耳に関する主要症候、鼻に関する主要症候）	【事前・事後】標準テキストの眼・耳・鼻の疾患を読み、予習・復習をする。（概ね1時間）
18	眼・耳・鼻の疾患③ 眼の疾患	【事前・事後】標準テキストの眼・耳・鼻の疾患を読み、予習・復習をする。（概ね1時間）
19	眼・耳・鼻の疾患④ 耳の疾患	【事前・事後】標準テキストの眼・耳・鼻の疾患を読み、予習・復習をする。（概ね1時間）
20	眼・耳・鼻の疾患⑤ 鼻の疾患 効果確認	【事前・事後】標準テキストの眼・耳・鼻の疾患を読み、予習・復習をする。（概ね1時間）
教科書	「救急救命士標準テキスト 改訂第10版」救急救命士標準テキスト編集委員会編集、ヘルス出版社	
参考文献	「新版からだの地図帳」佐藤達夫監修、講談社	
備考	*授業内で小テストを実施する。 *小テスト、効果確認については、次回の授業でフィードバックする。	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

救急救命士として、多くの救急現場に出場し、様々な症例を経験してきた。また、救急救命士としての経験を活かして通信指令室（119番）では、市民への口頭指導を数多く行い、救命率の向上に努めた。その実務経験を活かし、救急活動について具体的にわかりやすく授業を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-2-DEM-04				
	●	●	●	●						
科目名	疾病救急医学Ⅳ				単位認定者	横山 亜矢		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題等	20 %
					授業形態	講義	授業時間数		40 時間	受講態度
						授業回数	20 回			
授業の概要	<p>救急救命の現場で遭遇することの多い特徴的な疾患について学修する。小児の救急疾患は、基本的には成人の場合と処置は同様だが、訴えが不明瞭であるために重症度の判断や重症化の予知が困難等の特徴がある。小児の年齢によって好発する疾患があり、同じ疾患でも低年齢ほど重症化しやすいことも特徴といえる。高齢者の救急疾患には、加齢による身体機能や精神機能の変化を背景とした疾患であることが多い。母体の救急疾患には、母体と胎児・新生児の観察・処置等を同時に行うという特殊性があり、分娩介助が必要となる場合もある。精神障害には、それぞれの精神症状にあわせた適切な対応が求められ、自傷他害の恐れがあるケースもある。「疾病救急医学Ⅳ」では、小児に特有な疾患、高齢者に特有な疾患、妊娠・分娩と救急疾患、精神障害について、それぞれの発症機序、症候、症状、所見、予後、観察、評価、鑑別処置及び搬送法等を学修する。救急救命士として様々な疾患を持つ患者に適切に対応できるようにするための、基本的な知識を修得する。</p>									
到達目標	各項目のそれぞれの傷病者に対しての知識を深めるとともに、必要な対応ができるようになる。									
学修者への期待等	テキストで予習をすること。授業内で小テストを実施する。授業とシミュレーションと合わせて理解を深めてほしい。様々な疾患を持つ傷病者に寄り添い、適切な対応ができるようになってほしい。									
回	授業計画				準備学修					
1	感染症① (総論)				テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 11感染症で予習・復習すること(概ね1時間)。					
2	感染症② (敗血症、結核、インフルエンザ、食中毒)				テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 11感染症で予習・復習すること(概ね1時間)。					
3	感染症③ (輸入感染症、発疹性感染症)				テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 11感染症で予習・復習すること(概ね1時間)。					
4	感染症④ (性感染症)				テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 11感染症で予習・復習すること(概ね1時間)。					
5	感染症⑤ (皮膚軟部組織、その他の感染症)				テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 11感染症で予習・復習すること(概ね1時間)。					
6	小児に特有な疾患① (総論)				テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 12小児に特有な疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。					
7	小児に特有な疾患② (観察と判断)				テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 12小児に特有な疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。					
8	小児に特有な疾患③ (神経系・呼吸系)				テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 12小児に特有な疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。					
9	小児に特有な疾患④ (消化系・感染症)				テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 12小児に特有な疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。					
10	小児に特有な疾患⑤ (その他の疾患)				テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 12小児に特有な疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。					

回	授業計画	準備学修
11	高齢者に特有な疾患① (加齢による変化)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 13高齢者に特有な疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。
12	高齢者に特有な疾患② (高齢者疾患の特徴、傷病者への対応)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 13高齢者に特有な疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。
13	高齢者に特有な疾患③ (認知症、せん妄、脱水)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 13高齢者に特有な疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。
14	高齢者に特有な疾患④ (骨粗鬆症、褥瘡、廃用症候群)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 13高齢者に特有な疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。
15	妊娠・分娩と救急疾患① (正常妊娠、異常妊娠と妊娠中の異常)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 14妊娠・分娩と救急医療で予習・復習すること(概ね1時間)。
16	妊娠・分娩と救急疾患② ・実技も含む (正常分娩、異常分娩)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 14妊娠・分娩と救急医療で予習・復習すること(概ね1時間)。
17	妊娠・分娩と救急疾患③ ・実技も含む (観察と処置)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 14妊娠・分娩と救急医療で予習・復習すること(概ね1時間)。
18	精神障害① (総論)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 15精神障害で予習・復習すること(概ね1時間)。
19	精神障害② (主な精神障害)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 15精神障害で予習・復習すること(概ね1時間)。
20	精神障害③ (向精神薬の主な副作用)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 15精神障害で予習・復習すること(概ね1時間)。
教科書	「救急救命士標準テキスト 改訂第10版」救急救命士標準テキスト編集委員会、へるす出版	
参考文献		
備考	授業はすべて対面授業とするが遠隔(オンライン)に切り替える可能性もある。小テストについては授業内で解説。	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

救急救命士として実務経験を活用して、各領域の特徴や疾患について詳しく説明する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-2-TEM-01				
	●	●		●						
科目名	外傷学 I				単位認定者	鈴木 宏俊		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題等	20 %
					授業形態	講義	授業時間数		40 時間	受講態度
				授業回数		20 回				
授業の概要	<p>外傷とは、広義では、機械的、物理的、化学的な外力により生じた組織・臓器の損傷のことをいう。「外傷学 I」では、外傷の疫学や外傷システム、頭部外傷、顔面・頸部外傷、脊椎・脊髄外傷、胸部外傷、腹部外傷等について、それぞれの受傷機転、発生機序、病態、症状、所見、予後、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法等を学修する。救急外傷疾患には、重症外傷でショックを伴うもの等があり、外傷により生じる生体の反応等、外傷の病態生理についても学ぶ。救急救命の現場で傷病者の命を救うための、外傷に対応する基礎知識を身につける。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 頭部外傷の傷病者の評価、病態、主な外傷、現場活動等について説明できる。 2. 顔面・頸部外傷の傷病者の評価、病態、主な外傷、現場活動等について説明できる。 3. 脊椎・脊髄外傷の傷病者の評価、病態・主な外傷、現場活動等について説明できる。 4. 胸部外傷の傷病者の評価、病態、主な外傷、現場活動等について説明できる。 5. 腹部外傷の傷病者の評価、病態、主な外傷、現場活動等について説明できる。 									
学修者への期待等	<p>今日置かれている救急活動の重要性を認識し、どのような症例にも冷静に迅速的確な緊急度・重症度の判断と現場対応ができるよう知識、技術をしっかりと習得してほしい。</p>									
回	授業計画				準備学修					
1	受傷機転① 受傷機転とエネルギー				【事前・事後】標準テキストの受傷機転を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)					
2	受傷機転② 外傷の分類				【事前・事後】標準テキストの受傷機転を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)					
3	受傷機転③ 主な受傷形態 効果確認				【事前・事後】標準テキストの受傷機転を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)					
4	外傷の病態生理① 侵襲への反応				【事前・事後】標準テキストの外傷の病態生理を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)					
5	外傷の病態生理② 外傷に伴うショック、外傷によるショックに対する輸液 効果確認				【事前・事後】標準テキストの外傷の病態生理を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)					
6	外傷の現場活動① 状況評価				【事前・事後】標準テキストの外傷の現場活動を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)					
7	外傷の現場活動② 傷病者の評価(初期評価、全身観察、重点観察)				【事前・事後】標準テキストの外傷の現場活動を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)					
8	外傷の現場活動③ 傷病者の評価(緊急度・重症度とロードアンドゴーの判断、医療機関選定と搬送開始、搬送中の活動) 効果確認				【事前・事後】標準テキストの外傷の現場活動を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)					
9	頭部外傷① 疫学、受傷機転、病態、主な外傷				【事前・事後】標準テキストの頭部外傷を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)					
10	頭部外傷② 現場活動 効果確認				【事前・事後】標準テキストの頭部外傷を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)					

回	授業計画	準備学修
11	顔面・頸部外傷① 疫学、特徴、主な外傷	【事前・事後】標準テキストの顔面・頸部外傷を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)
12	顔面・頸部外傷② 現場活動 効果確認	【事前・事後】標準テキストの顔面・頸部外傷を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)
13	脊椎・脊髄外傷① 疫学、脊椎損傷の受傷機転	【事前・事後】標準テキストの脊椎・脊髄外傷を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)
14	脊椎・脊髄外傷② 病態	【事前・事後】標準テキストの脊椎・脊髄外傷を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)
15	脊椎・脊髄外傷③ 主な外傷、現場活動 効果確認	【事前・事後】標準テキストの脊椎・脊髄外傷を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)
16	胸部外傷① 疫学、受傷機転、病態	【事前・事後】標準テキストの胸部外傷を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)
17	胸部外傷② 主な外傷	【事前・事後】標準テキストの胸部外傷を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)
18	胸部外傷③ 現場活動 効果確認	【事前・事後】標準テキストの胸部外傷を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)
19	腹部外傷① 疫学、受傷機転、病態	【事前・事後】標準テキストの腹部外傷を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)
20	腹部外傷② 主な外傷、現場活動 効果確認	【事前・事後】標準テキストの腹部外傷を読み、予習・復習を行ってください。(概ね1時間)
教科書	「救急救命士標準テキスト 改訂第10版」救急救命士標準テキスト編集委員会編集、へるす出版社	
参考文献	「新版からだの地図帳」佐藤達夫監修、講談社	
備考	*授業内で小テストを実施する。 *小テスト、効果確認は、次回の授業でフィードバックする。	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

救急救命士として、多くの救急現場に出場し、様々な症例を経験してきた。また、救急救命士としての経験を活かし、通信指令室(119番受付)では、市民への口頭指導を数多く行い、救命率の向上に務めた。その実務経験を活かし、救急活動について具体的にわかりやすく授業を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-2-TEM-02				
	●	●		●						
科目名	外傷学Ⅱ				単位認定者	横山 亜矢		試験(筆記)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内 課題等	40 %
					授業形態		講義		授業時間数	40 時間
						授業回数	20 回			
授業の概要	<p>外傷とは、広義では、機械的、物理的、化学的な外力により生じた組織・臓器の損傷のことをいう。「外傷学Ⅱ」では、骨盤外傷、四肢外傷のほか、小児・高齢者・妊婦の外傷や、熱傷、化学損傷、電撃傷・雷撃傷、縊頸・絞頸、刺咬症等の特殊な外傷について、それぞれの受傷機転、発生機序、病態、症状、所見、予後、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法等を学修する。救急救命の現場で傷病者の命を救うための、外傷に対応する基礎知識を身につける。</p>									
到達目標	<p>防ぎ得た外傷死を減らすための外傷に対応する知識を深め、説明できる。外傷学Ⅱで学修した内容をシミュレーション等で実践することができる。</p>									
学修者への期待等	<p>テキストで予習・復習を行うこと。シミュレーション等で実践することができる。救急救命の現場で傷病者の命を救うための、重要な項目のひとつだという事を念頭に置いて授業に臨んでほしい。</p>									
回	授業計画				準備学修					
1	骨盤外傷① (疫学、受傷機転、病態)									
2	骨盤外傷② (主な外傷)									
3	骨盤外傷③ (現場活動)									
4	四肢外傷① (疫学、病態)									
5	四肢外傷② (主な外傷)									
6	四肢外傷③ (現場活動)									
7	小児の外傷 (特徴、主な外傷)									
8	高齢者の外傷 (特徴、主な外傷)									
9	妊婦の外傷									
10	骨盤外傷～妊婦の外傷まとめ (小テスト)				<p>テキスト第Ⅲ編専門分野 第6章外傷救急医学で復習すること(概ね1時間)。【事後】レポート提出(概ね1時間)詳細は授業で説明。</p>					

回	授業計画	準備学修
11	熱傷① (疫学と受傷機転、病態)	
12	熱傷② (注意を要する熱傷、評価)	
13	熱傷③ (現場活動)	
14	化学損傷① (各種の化学損傷)	
15	化学損傷② (観察、処置)	
16	電撃症・雷撃症	
17	縊頸・絞頸	
18	刺咬症(傷)① (哺乳類、爬虫類)	
19	刺咬症(傷)② (節足動物、海洋生物)	
20	熱傷～刺咬症(傷)まとめ (小テスト)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第6章外傷救急医学で復習すること(概ね1時間)。【事後】レポート提出(概ね1時間)詳細は授業で説明。
教科書	「救急救命士標準テキスト 改訂第10版」救急救命士標準テキスト編集委員会、へるす出版 「改訂第2版補訂版 JPTECガイドブック」一般社団法人 JPTEC協議会、へるす出版	
参考文献		
備考	授業はすべて対面授業とするが遠隔(オンライン)に切り替える可能性もある。小テストについては採点后誤った回答に関して、次回までのレポートとする。	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

救急救命士として実務経験を活用し、外傷部位ごとに解説するとともに系統的な理解ができるようにする。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-2-CLP-01				
	●		●	●						
科目名	救急救命シミュレーション I				単位認定者	堀口 雅司、鈴木 宏俊 平川 正隆、佐藤武諭毅		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	5 単位	評価の方法	授業内課題等	20 %
						授業形態	演習		授業時間数	150 時間
						授業回数	75 回			
授業の概要	<p>自他の生命を尊重し、健康で安全な生活を営むことができる救急救命士としての自覚を養う。傷病者の苦痛の軽減や症状の悪化防止に必要な観察法や応急処置等のシミュレーションを行い、救急救命処置の基本となる傷病者の観察と判断、応急処置に必要な知識と技術搬送法を修得する。また、傷病者の基本的観察や気道管理、呼吸管理、体位管理、体温管理等に必要な資材、機材の使用法や注意点等を理解し、実際の救急活動において的確に実践するための基本的技術を身につける。救急救命士として、傷病者の容態の安定化を図り生命維持を助けることのできる、傷病者に対する初期対応のプロとなるための技術の基礎を、シミュレーションを通して身につける。</p>									
到達目標	<p>救急隊員として活動することができる。救急活動の基本となる観察、判断、処置、評価を修得する。救急救命士の基礎となる知識と技術、人間愛と思いやりの心を持った救急活動を学修する。</p>									
学修者への期待等	<p>演習はペアまたは小グループで行う。授業は全て実技を実施するので、演習時の服装は、実習着、運動靴を着用する。改訂第10版救急救命士標準テキストを持参する。演習で使用する人形は、本物の傷病者として扱うのとし、傷病者に失礼な態度がないように取り組むこと。事前にテキストやLMSへ掲載の資料等を熟読し、質問事項を用意して授業に臨んでください。</p>									
回	授業計画					準備学修				
1	授業ガイダンス① 救急資器材の確認、規律要領の説明 訓練礼式の基準、動作の基本、行動の基本									
2	授業ガイダンス② 救急資器材の確認、規律要領の実践 集合整列要領、各個訓練、号令等の指揮									
3	救急蘇生法 成人（一般市民用：人工呼吸、死線期呼吸、胸骨圧迫、除細動） 主に教員からの解説、展示					テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」8 救急蘇生法で予習・復習すること（概ね1時間）。				
4	救急蘇生法 成人（一般市民用：人工呼吸、死線期呼吸、胸骨圧迫、除細動） 主に学生の実技					テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」8 救急蘇生法で予習・復習すること（概ね1時間）。				
5	救急蘇生法 成人・小児・乳幼児（一般市民用：人工呼吸、死線期呼吸、胸骨圧迫、除細動） 効果確認（指導者役・受講生役）					テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」8 救急蘇生法で予習・復習すること（概ね1時間）。				
6	救急蘇生法（一般市民用：気道異物除去、止血法、固定法、三角巾の使用法、体位管理、体温管理）					テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」8 救急蘇生法で予習・復習すること（概ね1時間）。				
7	救急蘇生法（一般市民用：搬送法、熱傷の手当、熱中症の手当、法的責任、感染防止）					テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」8 救急蘇生法で予習・復習すること（概ね1時間）。				
8	傷病者の観察（観察の目的と意義、バイタルサイン、観察の方法）全身状態の観察（意識（JCS、GCS）、外見、気道、呼吸、循環） 主に教員からの解説と展示					テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。				
9	傷病者の観察（観察の目的と意義、バイタルサイン、観察の方法）全身状態の観察（意識（JCS、GCS）、外見、気道、呼吸、循環） 主に学生の実技					テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。				
10	傷病者の観察（観察の目的と意義、バイタルサイン、観察の方法）全身状態の観察（意識（JCS、GCS）、外見、気道、呼吸、循環） 主に学生の実技と効果確認					テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。				

回	授業計画	準備学修
11	局所の観察（皮膚、頭部、顔面、頸部、胸部、背部、腹部、鼠径部、会陰部、骨盤、手指、足趾、爪、各種病態の観察アルゴリズム） 主に教員からの解説、展示	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。
12	局所の観察（皮膚、頭部、顔面、頸部、胸部、背部、腹部、鼠径部、会陰部、骨盤、手指、足趾、爪、各種病態の観察アルゴリズム） 主に学生の実技	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。
13	神経所見の観察（運動機能、感覚、髄膜刺激症候、失語症と構音障害、脳卒中スケール、神経学的異常の観察方法） 主に教員からの解説と展示	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。
14	神経所見の観察（運動機能、感覚、髄膜刺激症候、失語症と構音障害、脳卒中スケール、神経学的異常の観察方法） 主に学生の実技	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。
15	傷病者の観察項目 （主に意識レベル、呼吸、循環、全身）	効果確認
16	緊急度・重症度判断トレーニング/内因性・外因性 主に教員からの解説と展示	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。
17	緊急度・重症度判断トレーニング/内因性・外因性 主に学生の実技	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。
18	資器材による観察（パルスオキシメータ、聴診器、血圧計、体温計、心電図モニター） 主に教員からの解説と展示	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。
19	資器材による観察（パルスオキシメータ、聴診器、血圧計、体温計、心電図モニター） 主に学生の実技	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。
20	資器材による観察（パルスオキシメータ、聴診器、血圧計、体温計、心電図モニター） 主に学生の実技と効果確認	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。
21	意識のある傷病者に対する活動要領① 主に教員からの解説と展示	
22	意識のある傷病者に対する活動要領① 主に学生の実技	
23	気道確保（手動的気道確保・エアウェイを用いた気道確保）、気道異物除去 主に教員からの解説と展示	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。
24	気道確保（手動的気道確保・エアウェイを用いた気道確保）、気道異物除去 主に学生の実技	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。
25	気道確保（手動的気道確保・エアウェイを用いた気道確保）、気道異物除去 主に学生の実技と効果確認	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。
26	酸素投与（各マスク）、人工呼吸（バッグ・バルブ・マスクによる各方式） 主に教員からの解説と展示	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。
27	酸素投与（各マスク）、人工呼吸（バッグ・バルブ・マスクによる各方式） 主に学生の実技	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。
28	胸骨圧迫、自動式心マッサージ器の説明、電気ショック（半自動式除細動器） 主に教員からの解説と展示	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。
29	胸骨圧迫、自動式心マッサージ器の説明、電気ショック（半自動式除細動器） 主に学生の実技	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。
30	胸骨圧迫、自動式心マッサージ器の説明、電気ショック（半自動式除細動器） 主に学生の実技と効果確認	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。

回	授業計画	準備学修
31	重症外傷傷病者に対する活動 (状況評価・初期評価)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第6章「外傷救急医学/ 4外傷の現場活動」で予習・復習すること(概ね 1時間)。
32	重症外傷傷病者に対する活動 (初期評価・全身観察)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第6章「外傷救急医学/ 4外傷の現場活動」で予習・復習すること(概ね 1時間)。
33	止血(止血帯、ターネケット)、創傷処置(種類、 器具、方法)、固定(種類、器具、方法) 主に教員からの解説と展示	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/ 救急救命処置概論」で予習・復習すること(概ね 1時間)。
34	止血(止血帯、ターネケット)、創傷処置(種類、 器具、方法)、固定(種類、器具、方法) 主に学生の実技	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/ 救急救命処置概論」で予習・復習すること(概ね 1時間)。
35	止血(止血帯、ターネケット)、創傷処置(種類、 器具、方法)、固定(種類、器具、方法) 主に学生の実技と効果確認	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/ 救急救命処置概論」で予習・復習すること(概ね 1時間)。
36	体位管理、体温管理、傷病者搬送(担架、ストッレ チャー、救急車) 主に教員からの解説と展示	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/ 救急救命処置概論」で予習・復習すること(概ね 1時間)。
37	体位管理、体温管理、傷病者搬送(担架、ストッレ チャー、救急車) 主に学生の実技と効果確認	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/ 救急救命処置概論」で予習・復習すること(概ね 1時間)。
38	重症外傷傷病者に対する活動 (全身観察・重点観察)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第6章「外傷救急医学/ 4外傷の現場活動」で予習・復習すること(概ね 1時間)。
39	重症外傷傷病者に対する活動 (医療機関選定・車内活動)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第6章「外傷救急医学/ 4外傷の現場活動」で予習・復習すること(概ね 1時間)。
40	重症外傷傷病者に対する活動 (車内活動・詳細観察・継続観察)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第6章「外傷救急医学/ 4外傷の現場活動」で予習・復習すること(概ね 1時間)。
41	重症外傷傷病者に対する活動 (車外救出・ヘルメット離脱) 主に教員からの解説と展示	テキスト第Ⅲ編専門分野 第6章「外傷救急医学/ 4外傷の現場活動」で予習・復習すること(概ね 1時間)。
42	重症外傷傷病者に対する活動 (車外救出・ヘルメット離脱) 主に学生の実技	テキスト第Ⅲ編専門分野 第6章「外傷救急医学/ 4外傷の現場活動」で予習・復習すること(概ね 1時間)。
43	心停止傷病者に対する活動(特定行為は除く) 主に教員からの解説と展示	
44	心停止傷病者に対する活動(特定行為は除く) 主に学生の実技	
45	心停止傷病者に対する活動(特定行為は除く) 主に学生の実技と効果確認	
46	意識のある傷病者に対する活動要領② 主に教員からの解説と展示	
47	意識のある傷病者に対する活動要領② 主に学生の実技と効果確認	
48	声門上気道デバイスを用いた気道確保(各種) 主に教員からの解説と展示	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/ 救急救命処置概論」で予習・復習すること(概ね 1時間)。
49	声門上気道デバイスを用いた気道確保(各種) 主に学生の実技	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/ 救急救命処置概論」で予習・復習すること(概ね 1時間)。
50	声門上気道デバイスを用いた気道確保(各種) 主に学生の実技と効果確認	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/ 救急救命処置概論」で予習・復習すること(概ね 1時間)。

回	授業計画	準備学修
51	特定行為を含む救急隊活動①（外因性） 主に教員からの解説と展示	テキスト第Ⅲ編専門分野 第6章「外傷救急医学/ 4外傷の現場活動」で予習・復習すること（概ね 1時間）。
52	特定行為を含む救急隊活動①（外因性） 主に学生の実技	テキスト第Ⅲ編専門分野 第6章「外傷救急医学/ 4外傷の現場活動」で予習・復習すること（概ね 1時間）。
53	気管挿管、ビデオ硬性喉頭鏡、気管吸引、 カプノメータ 主に学生の実技（基本動作）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/ 救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね 1時間）。
54	気管挿管、ビデオ硬性喉頭鏡、気管吸引、 カプノメータ 主に学生の実技（応用動作）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/ 救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね 1時間）。
55	気管挿管、ビデオ硬性喉頭鏡、気管吸引、 カプノメータ 主に学生の実技と効果確認	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/ 救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね 1時間）。
56	心停止傷病者への静脈路確保・輸液 主に教員からの解説と展示	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/ 救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね 1時間）。
57	心停止傷病者への静脈路確保・輸液 主に学生の実技（基本動作）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/ 救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね 1時間）。
58	心停止傷病者への静脈路確保・輸液 主に学生の実技（応用動作）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/ 救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね 1時間）。
59	心停止傷病者への静脈路確保・輸液 主に学生の実技（全般）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/ 救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね 1時間）。
60	心停止傷病者への静脈路確保・輸液 主に学生の実技と効果確認	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/ 救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね 1時間）。
61	器具による気道確保プロトコール(実技・病院連絡 要領) 適応・判断・病院連絡 主に教員からの解説と展示	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/ 救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね 1時間）。
62	器具による気道確保プロトコール(実技・病院連絡 要領) 適応・判断・病院連絡 主に学生の実技と効果確認	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/ 救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね 1時間）。
63	心停止傷病者へのアドレナリン投与、エピペンの使 用 主に教員からの解説と展示	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/ 救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね 1時間）。
64	心停止傷病者へのアドレナリン投与、エピペンの使 用 主に学生の実技（基本動作）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/ 救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね 1時間）。
65	心停止傷病者へのアドレナリン投与、エピペンの使 用 主に学生の実技（応用動作）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/ 救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね 1時間）。
66	心停止前傷病者への輸液 主に教員からの解説と展示	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/ 救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね 1時間）。
67	心停止前傷病者への輸液 主に学生の実技と効果確認	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/ 救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね 1時間）。
68	血糖測定・ブドウ糖投与 主に教員からの解説と展示	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/ 救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね 1時間）。
69	血糖測定・ブドウ糖投与 主に学生の実技（基本動作）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/ 救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね 1時間）。
70	血糖測定・ブドウ糖投与 主に学生の実技と効果確認	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/ 救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね 1時間）。

回	授業計画	準備学修
71	特定行為を含む救急隊活動②（外因性） 主に教員からの解説と展示	テキスト第Ⅲ編専門分野 第6章「外傷救急医学/ 4 外傷の現場活動」で予習・復習すること（概ね 1時間）。
72	特定行為を含む救急隊活動②（外因性） 主に学生の実技	テキスト第Ⅲ編専門分野 第6章「外傷救急医学/ 4 外傷の現場活動」で予習・復習すること（概ね 1時間）。
73	特定行為を含む救急隊活動③（内因性） 主に教員からの解説と展示	
74	特定行為を含む救急隊活動③（内因性） 主に学生の実技	
75	特定行為を含む救急隊活動③（内因性） 主に学生の実技と効果確認	
教科書	「救急救命士標準テキスト 改訂第10版」救急救命士標準テキスト編集委員会 へるす出版 「改訂第2版補訂版 JPTECガイドブック」 一般社団法人 JPTEC協議会 へるす出版 「救急技術マニュアル」（6訂版）救急業務研究会、東京法令出版 「救急処置スキルブック」〈上下巻〉（新訂第2版）田中秀治（総監修） 晴れ書房	
参考文献	4版 E.M.T Support Book 山本保博（監修）東京法令出版 改訂第6版救急蘇生法の指針2020医療従事者用（へるす出版） 改訂第6版救急蘇生法の指針2020市民用・解説編（へるす出版）	
備考	小テストは採点した後に模範解答と共に返却し、誤った回答に関して次回までのレポートとする。 各項目の最終日には、効果確認を行う。 ※この科目は救急救命シミュレーションⅡの履修要件として単位を修得していることが必須である。	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
救急救命士として実務経験を活用して、救急活動の基本となる観察、判断、処置、評価を教授する。 救急救命士の基礎となる知識と技術、人間愛と思いやりの心を持った救急活動の重要性を指導する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-2-CLP-02				
	●		●	●						
科目名	救急救命シミュレーションⅡ				単位 認定者	堀口 雅司、平川 正隆 横山 亜矢、佐藤武諭毅		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	5 単位	評価 の 方法	授業内 課題等	20 %
						授業時間数	150 時間		受講態度	20 %
				授業形態	演習	授業回数	75 回			
授業の概要	「救急救命シミュレーションⅠ」で修得した技術をもとに、各救急救命処置についてその目的を理解し、各処置における手技の基本を体得する。また、各救急救命処置に対応した必要資材、機材の使用法や注意点等を理解し、実際の救急活動において的確に実践するための基本的技術を身につける。救急救命士として、傷病者の容態の安定化を図り生命維持を助けることのできる、傷病者に対する初期対応のプロとなるための技術を、シミュレーションを通して身につける。									
到達目標	救急救命士の全基本手技を修得する。観察、接遇、特定行為を含めた処置の判断、指示要請、準備、処置、評価、報告の一連の救急活動を修得する。シミュレーションⅠで修得した内容を含め、傷病者の病態に応じた処置を判断して実施できる。									
学修者への 期待等	演習はペアまたは小グループで行う。授業は全て実技を実施するので、演習時の服装は、実習着、運動靴を着用する。改訂第10版救急救命士標準テキストを持参する。演習で使用する人形は、本物の傷病者として扱うのとし、傷病者に失礼な態度がないように取り組むこと。事前にテキストやLMSへ掲載の資料等を熟読し、質問事項を用意して授業に臨んでください。									
回	授業計画				準備学修					
1	基本手技・総合演習 (気道確保、酸素投与、人工呼吸、声門上気道デバイスを用いた気道確保、気管挿管等)				シミュレーションⅠで修得した内容確認。 テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/ 救急救命処置概論」で復習すること(概ね1時間)。					
2	基本手技・総合演習 (胸骨圧迫、電気ショック、静脈路確保、ブドウ糖投与等)				シミュレーションⅠで修得した内容確認。 テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/ 救急救命処置概論」で復習すること(概ね1時間)。					
3	特定行為を含む救急隊活動① 基本手技の確認・内因性疾患				シミュレーションⅠで修得した内容確認。					
4	特定行為を含む救急隊活動① 基本手技の確認・外因性疾患				シミュレーションⅠで修得した内容確認。					
5	特定行為を含む救急隊活動① 基本手技の確認・内因性疾患・外因性疾患				シミュレーションⅠで修得した内容確認。					
6	重症外傷傷病者に対する救急隊活動① 基本手技・外傷想定				シミュレーションⅠで修得した内容確認。 テキスト第Ⅲ編専門分野 第6章「外傷救急医学」、 JPTECガイドブックで予習・復習すること (概ね1時間)。					
7										
8	想定訓練①(心肺停止・呼吸系疾患)				シミュレーションⅠで修得した内容確認。 テキスト第Ⅲ編専門分野 第3章「救急病態生理学」 で予習・復習すること(概ね1時間)。					
9	想定訓練①(心肺停止・循環系疾患)				シミュレーションⅠで修得した内容確認。 テキスト第Ⅲ編専門分野 第3章「救急病態生理学」 で予習・復習すること(概ね1時間)。					
10	想定訓練①(心肺停止・消化系、その他の疾患)				シミュレーションⅠで修得した内容確認。 テキスト第Ⅲ編専門分野 第3章「救急病態生理学」 で予習・復習すること(概ね1時間)。					

回	授業計画	準備学修
11	重症外傷傷病者に対する救急隊活動② 基本手技・外傷想定	シミュレーションⅠで修得した内容確認。 テキスト第Ⅲ編専門分野 第6章「外傷救急医学」、JPTECガイドブックで予習・復習すること（概ね1時間）。
12		
13	想定訓練②（呼吸不全/心不全）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第3章「救急病態生理学」で予習・復習すること（概ね1時間）。
14	想定訓練②（ショック）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第3章「救急病態生理学」で予習・復習すること（概ね1時間）。
15	想定訓練②（重症脳障害）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第3章「救急病態生理学」で予習・復習すること（概ね1時間）。
16	産婦人科領域の処置 主に教員からの解説と展示	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」 第5章「疾病救急医学 14 妊娠・分娩と救急疾患」で予習すること（概ね1時間）。
17	産婦人科領域の処置 主に学生の実技	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」 第5章「疾病救急医学 14 妊娠・分娩と救急疾患」で予習すること（概ね1時間）。
18	想定訓練③（呼吸不全/心不全）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第3章「救急病態生理学」で予習・復習すること（概ね1時間）。
19	想定訓練③（ショック）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第3章「救急病態生理学」で予習・復習すること（概ね1時間）。
20	想定訓練③（重症脳障害）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第3章「救急病態生理学」で予習・復習すること（概ね1時間）。
21	重症外傷傷病者に対する救急隊活動③ 外傷想定	テキスト第Ⅲ編専門分野 第6章「外傷救急医学」、JPTECガイドブックで予習・復習すること（概ね1時間）。
22		
23		
24	想定訓練④（意識障害/頭痛） 内因性疾患想定	テキスト第Ⅲ編専門分野 第4章「救急症候学」で予習・復習すること（概ね1時間）。
25		
26	重症外傷傷病者に対する救急隊活動④ 外傷想定	テキスト第Ⅲ編専門分野 第6章「外傷救急医学」、JPTECガイドブックで予習・復習すること（概ね1時間）。
27		
28		
29	想定訓練⑤（痙攣/運動麻痺/めまい） 内因性疾患想定	テキスト第Ⅲ編専門分野 第4章「救急症候学」で予習・復習すること（概ね1時間）。
30		

回	授業計画	準備学修
31	重症外傷傷病者に対する救急隊活動⑤ 外傷想定	テキスト第Ⅲ編専門分野 第6章「外傷救急医学」、JPTECガイドブックで予習・復習すること（概ね1時間）。
32		
33	想定訓練⑥（呼吸困難/咯血/胸痛/動悸） 内因性疾患想定	テキスト第Ⅲ編専門分野 第4章「救急症候学」で予習・復習すること（概ね1時間）。
34		
35		
36	災害医療・多数傷病者・トリアージ 主に教員からの解説と展示	テキスト第Ⅲ編専門分野 第1章「救急医学概論/病院前医療概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。
37	災害医療・多数傷病者・トリアージ 主に学生の実技（基本）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第1章「救急医学概論/病院前医療概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。
38	想定訓練⑦ （一過性意識消失と失神、体温上昇） 内因性疾患想定	テキスト第Ⅲ編専門分野 第4章「救急症候学」で予習・復習すること（概ね1時間）。
39		
40		
41	災害医療・多数傷病者・トリアージ 主に学生の実技（応用）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第1章「救急医学概論/病院前医療概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。
42	災害医療・多数傷病者・トリアージ 主に学生の実技と効果確認	テキスト第Ⅲ編専門分野 第1章「救急医学概論/病院前医療概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。
43	想定訓練⑧ （腹痛/吐血・下血/腰痛・背部痛） 内因性疾患想定	テキスト第Ⅲ編専門分野 第4章「救急症候学」で予習・復習すること（概ね1時間）。
44		
45		
46	重症外傷傷病者に対する救急隊活動⑥ 外傷想定	テキスト第Ⅲ編専門分野 第6章「外傷救急医学」、JPTECガイドブックで予習・復習すること（概ね1時間）。
47		
48	想定訓練⑨（小児・高齢者）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章「疾病救急医学」で予習・復習すること（概ね1時間）。
49	想定訓練⑨ （小児・高齢者/妊娠・分娩と救急疾患）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章「疾病救急医学」で予習・復習すること（概ね1時間）。
50	想定訓練⑨ （妊娠・分娩と救急疾患/精神障害）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章「疾病救急医学」で予習・復習すること（概ね1時間）。

回	授業計画	準備学修
51	重症外傷傷病者に対する救急隊活動⑦ 外傷想定	テキスト第Ⅲ編専門分野 第6章「外傷救急医学」、JPTECガイドブックで予習・復習すること（概ね1時間）。
52		
53	想定訓練⑩（循環系疾患）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章「疾病救急医学」で予習・復習すること（概ね1時間）。
54	想定訓練⑩（消化系疾患）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章「疾病救急医学」で予習・復習すること（概ね1時間）。
55	想定訓練⑩（代謝・内分泌・栄養系疾患）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章「疾病救急医学」で予習・復習すること（概ね1時間）。
56	重症外傷傷病者に対する救急隊活動⑧ 外傷想定	テキスト第Ⅲ編専門分野 第6章「外傷救急医学」、JPTECガイドブックで予習・復習すること（概ね1時間）。
57		
58	想定訓練⑪（血液・免疫系/筋・骨格系疾患、）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章「疾病救急医学」で予習・復習すること（概ね1時間）。
59	想定訓練⑪（泌尿・生殖器系疾患/感染症）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章「疾病救急医学」で予習・復習すること（概ね1時間）。
60	想定訓練⑪（眼・耳・鼻・皮膚系疾患）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章「疾病救急医学」で予習・復習すること（概ね1時間）。
61	重症外傷傷病者に対する救急隊活動⑨ 外傷想定	テキスト第Ⅲ編専門分野 第6章「外傷救急医学」、JPTECガイドブックで予習・復習すること（概ね1時間）。
62		
63	想定訓練⑫（環境障害・急性中毒） 環境障害・急性中毒想定	テキスト第Ⅲ編専門分野 第7章「急性中毒学・環境障害」で予習・復習すること（概ね1時間）。
64		
65		
66	重症外傷傷病者に対する救急隊活動⑩ 外傷想定	テキスト第Ⅲ編専門分野 第6章「外傷救急医学」、JPTECガイドブックで予習・復習すること（概ね1時間）。
67		
68	想定訓練⑬（神経系疾患）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章「疾病救急医学」で予習・復習すること（概ね1時間）。
69	想定訓練⑬（呼吸系疾患）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章「疾病救急医学」で予習・復習すること（概ね1時間）。
70	想定訓練⑬（循環系疾患）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章「疾病救急医学」で予習・復習すること（概ね1時間）。

回	授業計画	準備学修
71	総合演習① 内因性疾患・外因性疾患想定	シミュレーションⅠ、Ⅱで修得したスキルを、様々な想定を経験することによって、ブラッシュアップする。代表的な疾患の特徴を事前に復習し、救急隊としての活動をイメージして臨むこと。
72		
73	総合演習② 内因性疾患・外因性疾患想定	シミュレーションⅠ、Ⅱで修得したスキルを、様々な想定を経験することによって、ブラッシュアップする。代表的な疾患の特徴を事前に復習し、救急隊としての活動をイメージして臨むこと。
74		
75		
教科書	「救急救命士標準テキスト 改訂第10版」救急救命士標準テキスト編集委員会、へるす出版 「改訂第2版補訂版 JPTECガイドブック」一般社団法人 JPTEC協議会、へるす出版 「救急技術マニュアル」(6訂版) 救急業務研究会、東京法令出版 「救急処置スキルブック」〈上下巻〉(新訂第2版) 田中秀治(総監修)、晴れ書房 「標準多数傷病者対応MCLSテキスト」一般社団法人日本災害医学会、ぱーそん書房	
参考文献	4版E.M.T Support Book 山本保博(監修) 東京法令出版	
備考	小テストは採点した後に模範解答と共に返却し、誤った回答に関して次回までのレポートとする。各項目の最終日には、効果確認を行う。	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
救急救命士として実務経験を活用して、傷病者の病態に応じた処置を判断して実施できるよう教授する。救急救命士の基礎となる知識と技術、人間愛と思いやりの心を持った救急活動の重要性を指導する。

救急救命学科のナンバリングの見方

【例】EM-1-○○○-01

EM	-	1	-	○○○	-	01
①	半角[-]	②	半角[-]	③	半角[-]	④

①学科（専攻）識別番号（全学共通教養教育科目も独立した略称）

半角アルファベット（大文字）2桁

全学共通教養教育科目：C0

救急救命学科：EM

②科目レベル

半角数字1桁

教養科目：0（全学共通教養教育科目も学科独自教養科目も同じ）

専門基礎科目：1

専門展開科目：2

③科目分類

半角アルファベット（大文字）3桁

教養教育分野 人間と文化	HCU	Human & culture
教養教育分野 人間と社会	HSO	Human & society
教養教育分野 人間と科学	HSC	Human & science
人体の構造と機能	HAP	Human Anatomy and Physiology
疾患の成り立ちと回復の過程	PDR	Pathogenesis of disease and process of recovery
健康と社会保障	HSS	Health and Social Security
救急医学概論	IEM	Introduction to emergency medicine
救急症候・病態生理学	ESP	Emergency symptoms and pathophysiology
疾病救急医学	DEM	Disease Emergency Medicine
外傷救急医学	TEM	Trauma Emergency Medicine
環境障害・急性中毒学	EDA	Environmental Disorders/Acute Toxicology
臨地実習	CLP	Clinical Practicums

④連続番号

半角数字 2 桁

全学共通教養教育科目は全学科、以下のナンバリングを使用する。

科目名称	ナンバリング
日本語表現法	CO-0-HCU-01
英語	CO-0-HCU-02
現代の社会	CO-0-HSO-03
法律入門	CO-0-HSO-04
情報処理	CO-0-HSC-01

科目区分		授業科目の名称	ナンバリング	
教養教育分野	人間と文化	日本語表現法	CO-0-HCU-01	
		英語	CO-0-HCU-02	
	人間と社会	現代の社会	CO-0-HSO-03	
		法律入門	CO-0-HSO-04	
	人間と科学	情報処理	CO-0-HSC-01	
		数理リテラシー	EM-0-HSC-02	
専門教育分野	専門基礎科目	人体の構造と機能	解剖生理学	EM-1-HAP-01
			人体構造と機能Ⅰ	EM-1-HAP-02
			人体構造と機能Ⅱ	EM-1-HAP-03
			人体構造と機能Ⅲ	EM-1-HAP-04
	疾病の成り立ちと回復の過程	薬理学	EM-1-PDR-01	
		病理学	EM-1-PDR-02	
		微生物学	EM-1-PDR-03	
		法医学	EM-1-PDR-04	
	健康と社会保障	社会保障論	EM-1-HSS-01	
		地域福祉論	EM-1-HSS-02	
	専門展開科目	救急医学概論	医学概論	EM-2-IEM-01
			救急救命医療概論	EM-2-IEM-02
			救急救命処置概論	EM-2-IEM-03
			感染症と災害医療	EM-2-IEM-04
		救急症候・病態生理学	救急病態生理学	EM-2-ESP-01
			救急症候学Ⅰ	EM-2-ESP-02
			救急症候学Ⅱ	EM-2-ESP-03
			救急症候学Ⅲ	EM-2-ESP-04
		疾病救急医学	疾病救急医学Ⅰ	EM-2-DEM-01
			疾病救急医学Ⅱ	EM-2-DEM-02

科目区分		授業科目の名称	ナンバリング
		疾病救急医学Ⅲ	EM-2-DEM-03
		疾病救急医学Ⅳ	EM-2-DEM-04
	外傷救急医学	外傷学Ⅰ	EM-2-TEM-01
		外傷学Ⅱ	EM-2-TEM-02
	環境障害・急性中毒学	環境障害・急性中毒学	EM-2-EDA-01
	臨地実習	救急救命シミュレーションⅠ	EM-2-CLP-01
		救急救命シミュレーションⅡ	EM-2-CLP-02
		救急救命シミュレーションⅢ	EM-2-CLP-03
		救急救命シミュレーションⅣ	EM-2-CLP-04
		臨床実習	EM-2-CLP-06
		救急用自動車同乗実習	EM-2-CLP-05

救急救命学科 教員一覧

	職位	氏名	E-mail
1	教授 (学科長)	青山 美智子 <small>あおやま みちこ</small>	m_aoyama@seiyogakuin.ac.jp
2	教授	堀口 雅司 <small>ほりぐち まさし</small>	m_horiguchi@seiyogakuin.ac.jp
3	准教授	鈴木 宏俊 <small>すずき ひろとし</small>	hr_suzuki@seiyogakuin.ac.jp
4	准教授	平川 正隆 <small>ひらかわ まさたか</small>	m_hirakawa@seiyogakuin.ac.jp
5	助教	横山 亜矢 <small>よこやま あや</small>	a_yokoyama@seiyogakuin.ac.jp

救急救命学科 実務経験を有する教員一覧

科目名	単位	実務教員	実務の概要
救急救命医療概論	2	平川 正隆	救急救命士及び地域メディカルコントロール委員としての実務経験に基づいた必須事項を中心に授業を展開する。
救急救命処置概論	2	堀口 雅司	救急救命士として実務経験を活用して、救急救命の現場で冷静に適切な判断を下し、理論的な観察・評価に裏付けられた処置を行い、傷病者の命を救うための、実践的な知識や観察力・推測力の重要性について教授する。
救急病態生理学	2	横山 亜矢	救急救命士として実務経験を活用し、傷病者観察からの判断・処置について解剖生理とともに解説する。
救急症候学Ⅰ	2	平川 正隆	救急救命士としての実務経験を活用して、正確な観察に基づく緊急度重症度判断が出来るよう基本的な部分から授業を展開する。
救急症候学Ⅱ	2	鈴木 宏俊	救急救命士として、多くの救急現場に出場し、様々な症例を経験してきた。また、救急救命士としての経験を活かして通信指令室(119番受付)では、市民への口頭指導を数多く行い、救命率の向上に務めた。その実務経験を活かし、救急活動について具体的にわかりやすく授業を行う。
救急症候学Ⅲ	2	平川 正隆	救急救命士として実務経験を活用し、正確な観察に基づく緊急度重症度判断が出来るよう基本的な部分から授業を展開する。
疾病救急医学Ⅰ	2	堀口 雅司	救急救命士として実務経験を活用して、救急医療では特に重要な神経系疾患、呼吸系疾患、循環系疾患について、それぞれの発症機序、症候、症状、所見、予後、観察、評価、鑑別処置及び搬送法等を教授する。
疾病救急医学Ⅱ	2	横山 亜矢	救急救命士として実務経験を活用し、病態についてわかりやすく説明する。
疾病救急医学Ⅲ	2	鈴木 宏俊	救急救命士として、多くの救急現場に出場し、様々な症例を経験してきた。また、救急救命士としての経験を活かして通信指令室(119番)では、市民への口頭指導を数多く行い、救命率の向上に努めた。その実務経験を活かし、救急活動について具体的にわかりやすく授業を行う。
疾病救急医学Ⅳ	2	横山 亜矢	救急救命士として実務経験を活用して、各領域の特徴や疾患について詳しく説明する。
外傷学Ⅰ	2	鈴木 宏俊	救急救命士として、多くの救急現場に出場し、様々な症例を経験してきた。また、救急救命士としての経験を活かして通信指令室(119番受付)では、市民への口頭指導を数多く行い、救命率の向上に務めた。その実務経験を活かし、救急活動について具体的にわかりやすく授業を行う。
外傷学Ⅱ	2	横山 亜矢	救急救命士として実務経験を活用し、外傷部位ごとに解説するとともに系統的な理解ができるようにする。
救急救命シミュレーションⅠ	5	堀口 雅司、鈴木 宏俊 平川 正隆、佐藤武諭毅	救急救命士として実務経験を活用して、救急活動の基本となる観察、判断、処置、評価を教授する。 救急救命士の基礎となる知識と技術、人間愛と思いやりの心を持った救急活動の重要性を指導する。
救急救命シミュレーションⅡ	5	堀口 雅司、平川 正隆 横山 亜矢、佐藤武諭毅	救急救命士として実務経験を活用して、傷病者の病態に応じた処置を判断して実施できるよう教授する。 救急救命士の基礎となる知識と技術、人間愛と思いやりの心を持った救急活動の重要性を指導する。
	34	実務経験を有する教員が担当する科目の単位	
	62	設置基準上の標準単位数	

2023（令和5）年度 オフィスアワー

オフィスアワーとは、教員が学生の皆さんとのコミュニケーションを充実させ、個別に相談を受けるために研究室に在室する時間を設ける制度のことです。

相談を希望する教員のオフィスアワーの時間帯は、掲示などによりお知らせします。指定時間に教員が研究室で待機していますが、臨時の会議や出張などにより不在の場合もありますので、電話・メールなどで事前に連絡をとることをおすすめします。

非常勤の先生には、非常勤講師控室（1階事務室隣にあります）または授業後の教室で相談をすることができます。

成績評価

成績評価基準は次のとおりです。

判定	成績評価	点数	GP
合格 (単位認定)	秀 (AA)	90点以上	4
	優 (A)	80点以上90点未満	3
	良 (B)	70点以上80点未満	2
	可 (C)	60点以上70点未満	1
不合格 (単位認定不可)	不可 (D)	60点未満 (※)	0
	評価不能 (E)	(1) 履修規程第6条第5項により、受験資格を有しない者 (2) 資格取得に係る実習で、各学科が関係法令を踏まえて授業科目ごとに定める時間数を満たさない者	0

(※) 再試験で合格の場合の成績評価は可 (C)、GP は1ポイントとなります。